

一級河川 宮川(指定区間)
平成21年度
第8回
三重県河川整備計画
流域委員会

平成22年2月15日
三重県

資料の構成

1. これまでの経緯
2. 第2回流域懇談会
3. 流域委員会、流域懇談会意見の反映
4. 整備計画（案）の概要
5. 今後の進め方

1. これまでの経緯

第1回 流域委員会（平成21年8月24日）

- ・ 流域の概要 ・ 主要洪水の概要
- ・ 現行計画と整備状況
- ・ 河川環境の概要

第1回流域懇談会（平成21年9月28・29日）

- ・ 宮川水系（県管理区間）の概要
- ・ 治水・利水・環境の現状

第2回 流域委員会（平成21年11月16日）

- ・ 現状と課題（治水・利水・環境）
- ・ 既定計画の概要
- ・ 整備計画（案）の考え方

第2回流域懇談会（平成21年11月27・30日）

- ・ 現状と課題（治水・利水・環境）
- ・ 既定計画の概要
- ・ 整備計画（案）の考え方

第3回 流域委員会（平成22年2月15日）

2. 第2回流域懇談会

第2回流域懇談会の議事内容

- ・平成21年11月27・30日に宮川水系第2回流域懇談会を開催

議事内容

- ・過去の洪水をもっと知るべきである。治水と自然の兼ね合いが重要。
- ・土砂がたまって危険なところや水が伏流して魚がすみにくいところがある。
- ・老朽化対策について、教えてほしい。
- ・コンクリートで固めた整備は行わないでほしい。
- ・生活雑排水が流れ込まないようにPR活動も行ってほしい。
- ・利用環境や景観に配慮してほしい。
- ・宮川ダムの放流は、濁った水は流さないでほしい。



中・下流部流域懇談会



上流部流域懇談会

3. 流域委員会、流域懇談会 意見の反映

前回までの意見と回答

- 流域の現状と課題、整備計画(案)の考え方について説明し、以下の意見をいただきました。

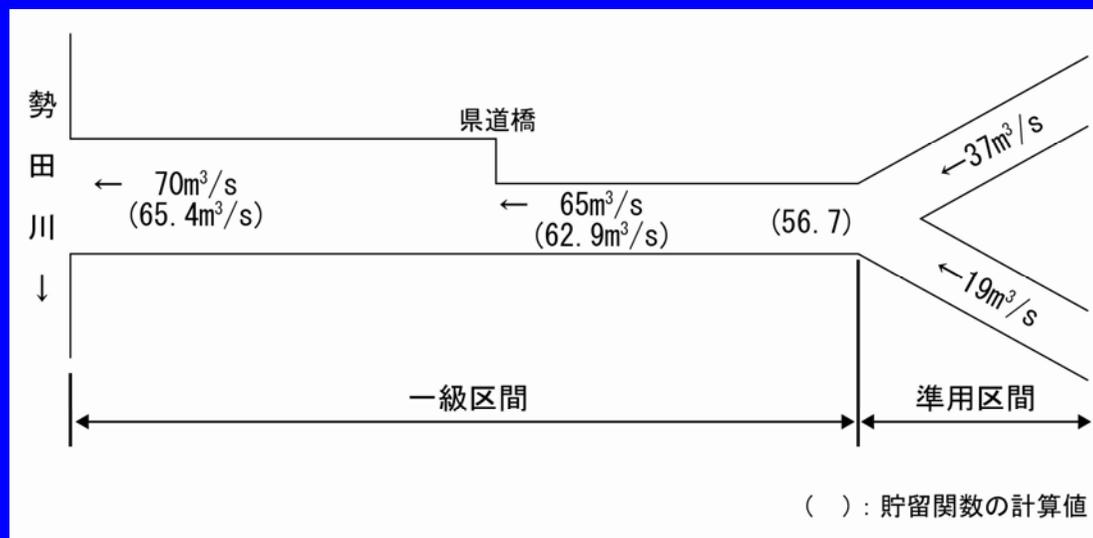
治水	<p>Q 1 桧尻川の計画規模W=1/30年は、上流が準用河川や下水道で整備されているため過大ではないか。勢田川に対する影響は無いのか。</p> <p>Q 2 宮川本川の土砂管理についてどのように考えているか。</p> <p>Q 3 護岸の老朽化対策や、整備計画の無い区間の対策について、教えてほしい。</p>
環境・利水	<p>Q 4 大内山川には、ネコギギ、アカザ、カジカ等の底生魚がいるため、工事するときに淵が埋まらないか心配である。</p>

Q1(治水)

桧尻川の計画規模 $W=1/30$ 年は、上流が準用河川や下水道で整備されているため過大ではないか。勢田川に対する影響は無いのか。

A1

- ・ 桧尻川上流の伊勢市が管理する準用河川は、計画規模 $W=1/5$ 年となっている。県管理区間の桧尻川と計画規模は異なっているが、流出計算手法の違いによるもので、計画流量はどちらも、合流地点で約 $56\text{m}^3/\text{s}$ と整合している。(桧尻川：貯留関数、準用区間：合理式)
- ・ 勢田川の河道は、昭和49年の七夕豪雨で被災したことから、激特事業での改修が行われている。この激特事業により、桧尻川の計画流量を受け入れる河道については整備済みとなっている。



桧尻川計画高水流量配分図

桧尻川排水機場

Q2(治水)

宮川本川の土砂管理についてどのように考えているか。

A2

H16.9洪水では、宮川上流でがけ崩れや土石流が発生し、大量の土砂が河道に流入し堆積している。このため、砂利採取業者とも連携し、定期的、継続的に維持掘削を行っていく。また、砂防事業についても継続して実施していく。



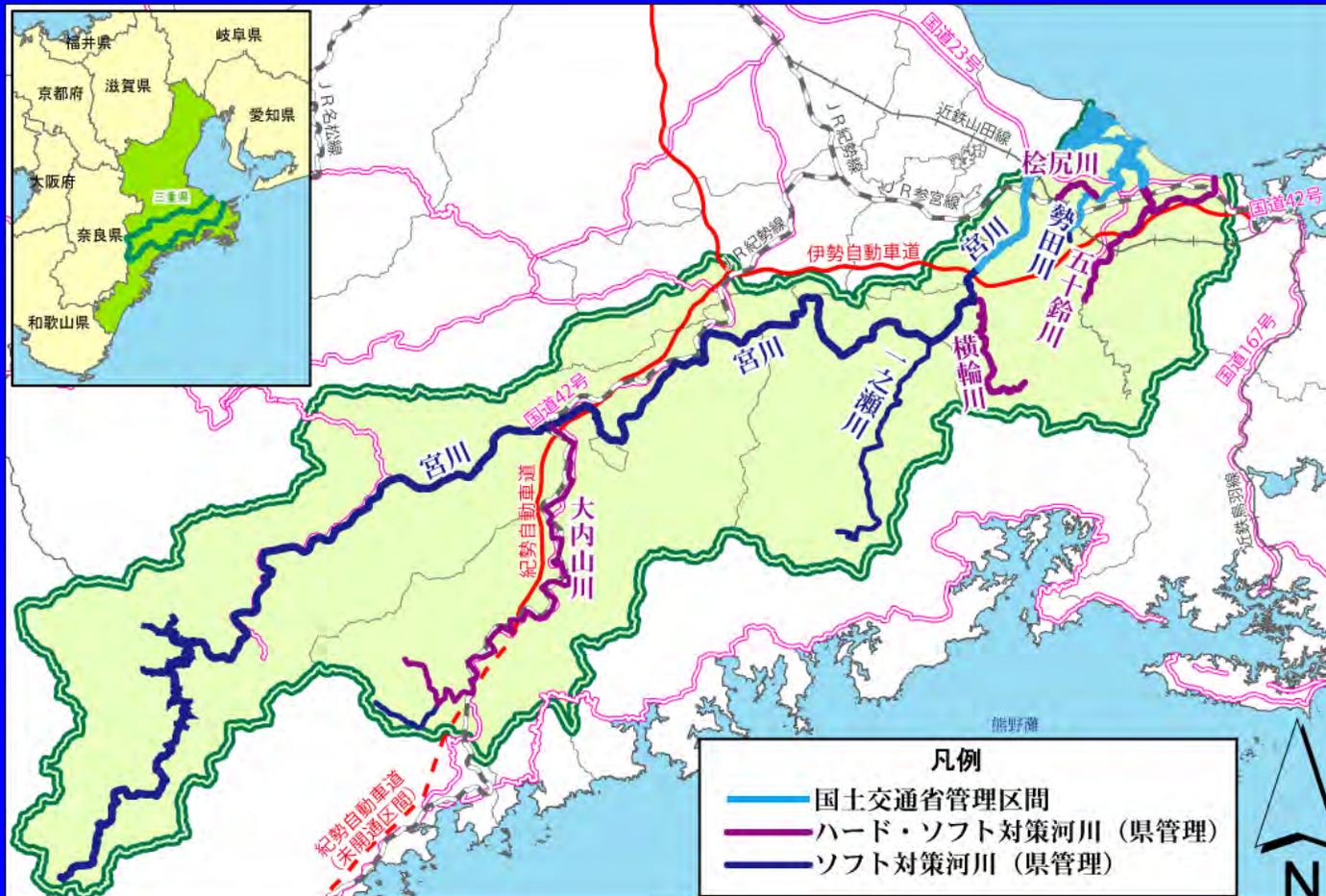
H16.9洪水の土砂の流入

Q3(治水)

護岸の老朽化対策や、整備計画の無い区間の対策について、教えてほしい。

A3

護岸の老朽化対策や、今回整備計画に位置付けていない河川につきましても、局部的な改修や緊急的、短期的、維持修繕的な整備により別途対応していきます。



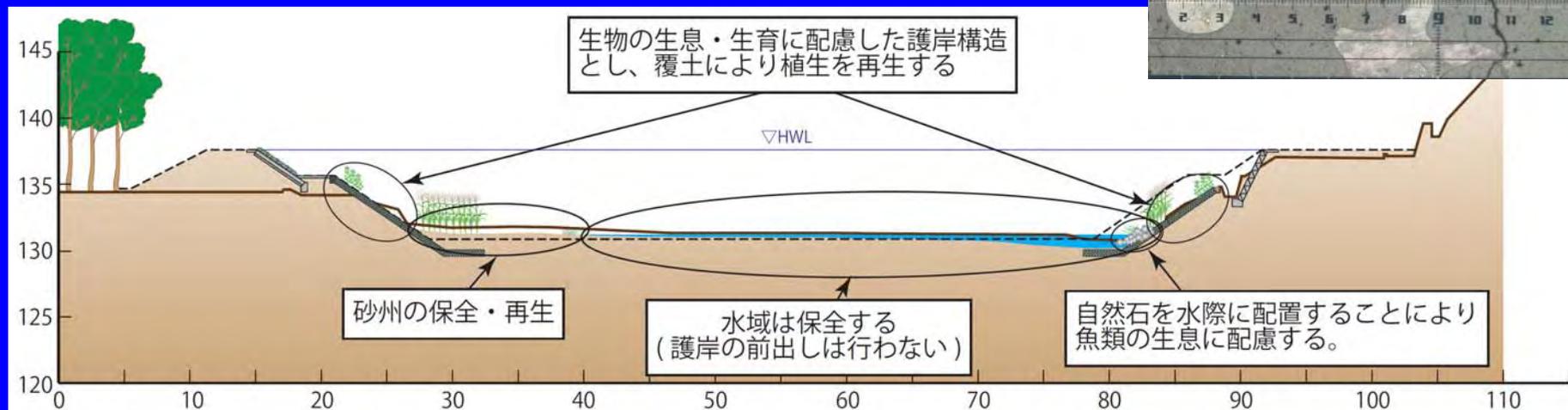
※ハード対策河川は、ソフト対策河川にも位置付けられます。

Q4(環境・利水)

大内山川には、ネコギギ、アカザ、カジカ等の底生魚がいるため、工事するときには淵が埋まらないか心配である。

A4

大内山川については、現在、専門家の意見を聞きながら改修を進めている。基本的に河床掘削や護岸の前出しはおこなわないため、水域の改変は最小限にとどめることができる。水際についても、自然石等を用いて魚類等自然環境に配慮していく。



大内山川横断図 (崎工区9.2k)

4. 整備計画（案）の概要

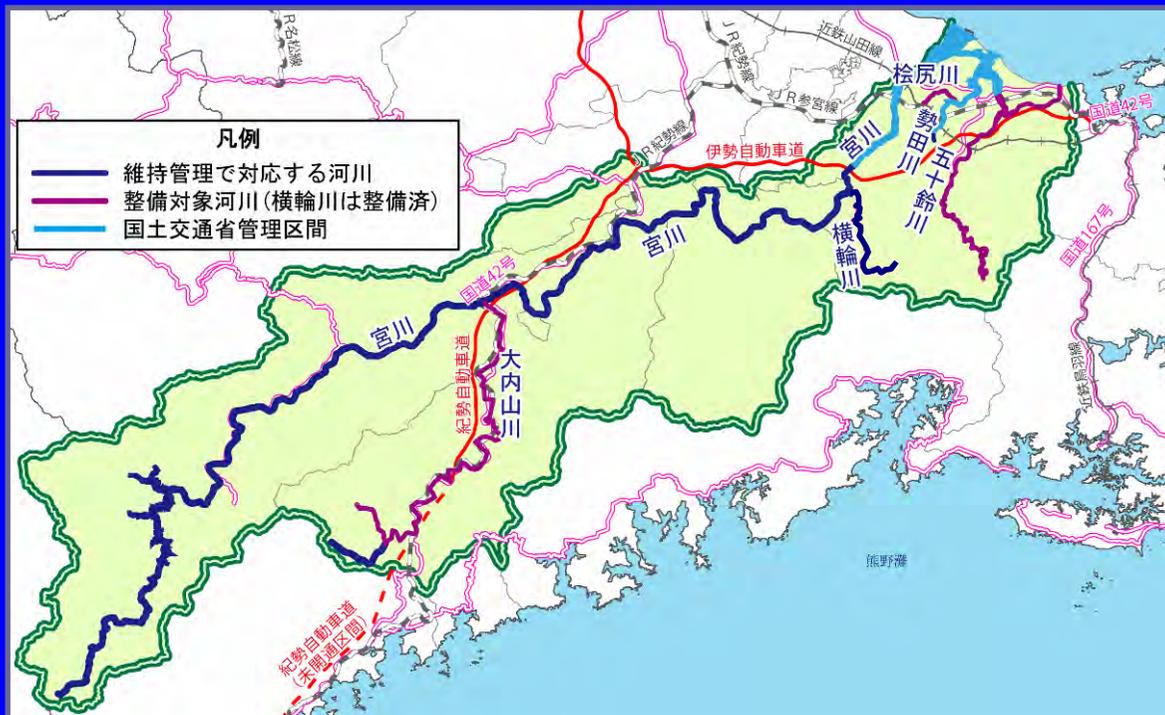
河川整備計画の目標に関する事項

■整備対象区間

河川整備計画における計画対象区間は、治水安全度バランスを踏まえ、宮川本川県管理区間及び支川4河川（五十鈴川、桧尻川、大内山川、横輪川）を対象区間とする。

■整備対象期間

宮川水系（指定区間）河川整備計画は、河川整備の当面の目標であり、その計画対象期間は概ね30年とする。



河川名	区間
宮川(県管理区間)	11.6k～90.7k
五十鈴川	6.9k～7.7k
五十鈴川派川	0.0k～2.8k
桧尻川	0.0k～1.6k
大内山川	6.2k～8.3k 8.3k～11.0k 16.1k～18.15k
横輪川・雨湊川	0.0k～1.8k

4. 整備計画（案）の概要

- 4.1 宮川整備計画（案）の概要
- 4.2 五十鈴川・五十鈴川派川整備計画（案）の概要
- 4.3 桧尻川整備計画（案）の概要
- 4.4 大内山川整備計画（案）の概要
- 4.5 横輪川整備計画（案）の概要

河川工事の施工の場所と主な工事内容

- 河川整備計画で対象とする河川工事の施工箇所は、河道流下能力が不足している区間のうち、沿川の土地利用状況や浸水被害の状況を考慮して設定する。

河川名	区 間	主な工事内容
五十鈴川	左岸 6.92k~7.46k 右岸 7.33k~7.70k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築、堰改築
	五十鈴川派川 両岸 0.0k~2.8k	
桧尻川	両岸 0.0k~1.6k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築
大内山川	両岸 6.2k~8.3k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸
	両岸 8.3k~11.0k	
	両岸 16.1k~18.15k	
横輪川	両岸 0.0k~1.215k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、引堤、護岸 築堤（バック堤） 橋梁改築、樋管改築
	雨湊川 両岸 0.0k~0.606k	

4.1 宮川整備計画（案）の概要

■宮川(指定区間)

■主要洪水の概要(平成16年9月:台風21号)

- ・宮川上流では、斜面崩壊や土石流・地すべりが発生し、甚大な被害を受けた。
- ・直轄管理区間においても、246戸もの家屋が浸水するなど甚大な被害を受けた。



宮川本川(直轄区間)家屋浸水状況(伊勢市)



宮川上流斜面崩壊状況(県管理区間)

- 水害原因:無堤部溢水、有堤部溢水
- 総雨量:753mm(宮川観測所)
- 時間最大雨量:119mm(宮川観測所)
- 家屋全半壊流出:33戸*
- 浸水家屋数:246戸*

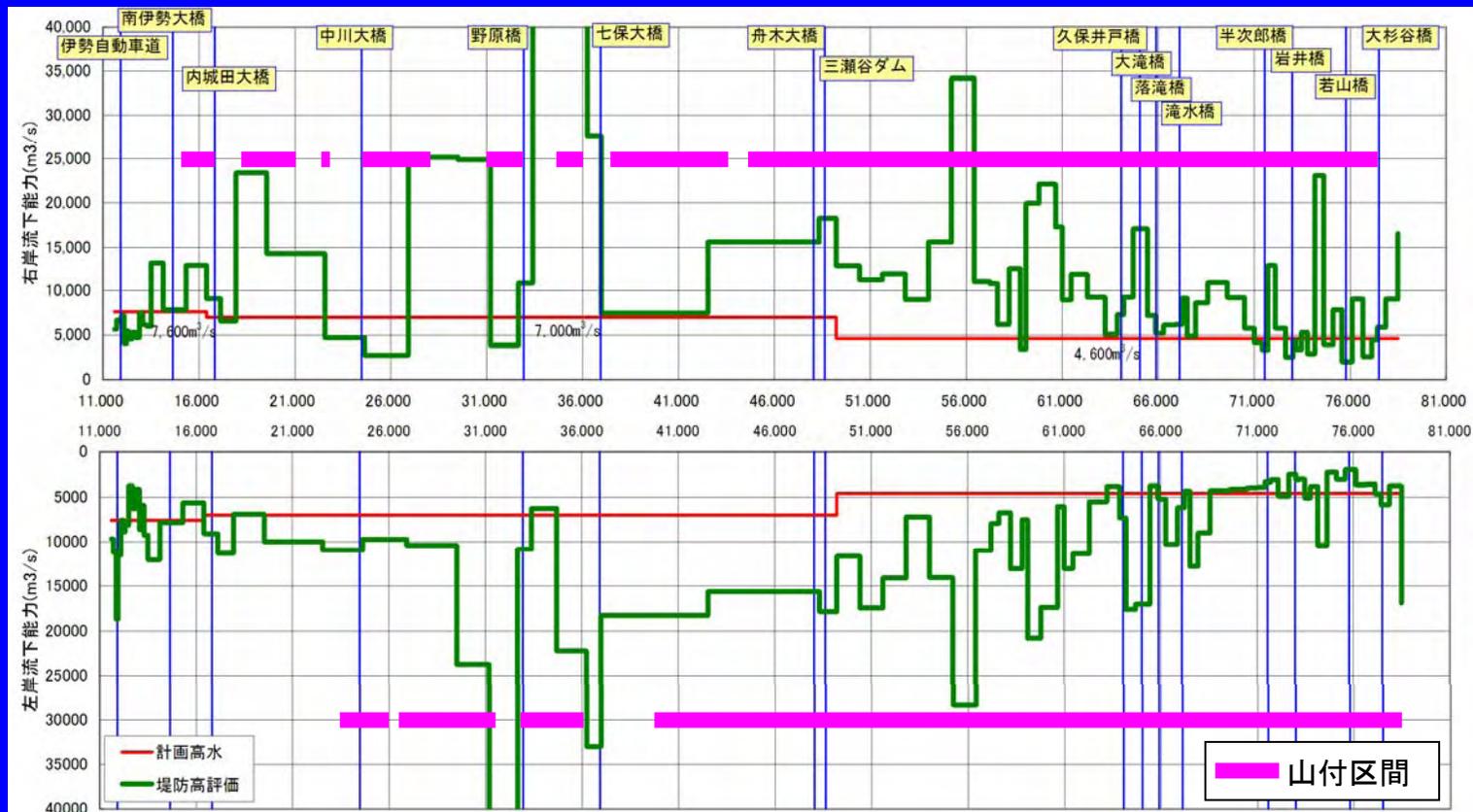
※水害統計(伊勢市・度会町の合計値)

■宮川(指定区間)

河川整備計画の目標に関する事項

➤整備計画目標設定の観点

- 宮川（県管理区間）においては、将来計画である河川整備基本方針流量に相当する計画高水流量に対して、現況河道での流下能力が概ね満足している。
- H16.9洪水では大量の土砂が河道に流入しており、このため、定期的・継続的に維持掘削を行い、必要な流下能力の確保に努める。



宮川（県管理区間） 現況流下能力

■宮川(指定区間)

河川整備計画の目標に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

— 正 常 流 量 —

宮川本川の河川の適正な利用については、今後とも関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努めるとともに、綿密な情報提供等、水利用の効率化を促進し、さらに、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境が維持・改善されることを目標とする。

また、流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後も流況の把握を行うとともに取水実態や動植物の生息・生育・繁殖環境等の調査を行い、設定に努めるものとする。

4.2 五十鈴川・五十鈴川派川 整備計画（案）の概要

■五十鈴川

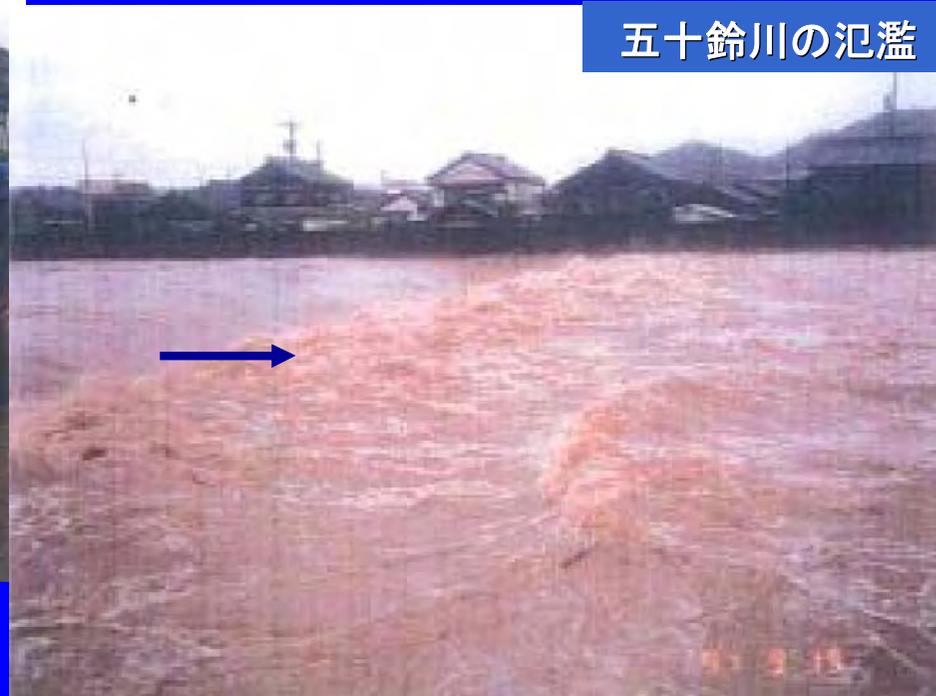
■主要洪水の概要(平成3年:台風18号)

- ・期間降水量が尾鷲市で545.5mm となったほか、紀伊半島、東海、関東の山沿いで400～500mm に達した所があった。
- ・この豪雨により、五十鈴川の楠部地区では、家屋が浸水するとともに、河川水位が堤防天端まで迫る状況となった。

楠部地区の浸水



五十鈴川の氾濫



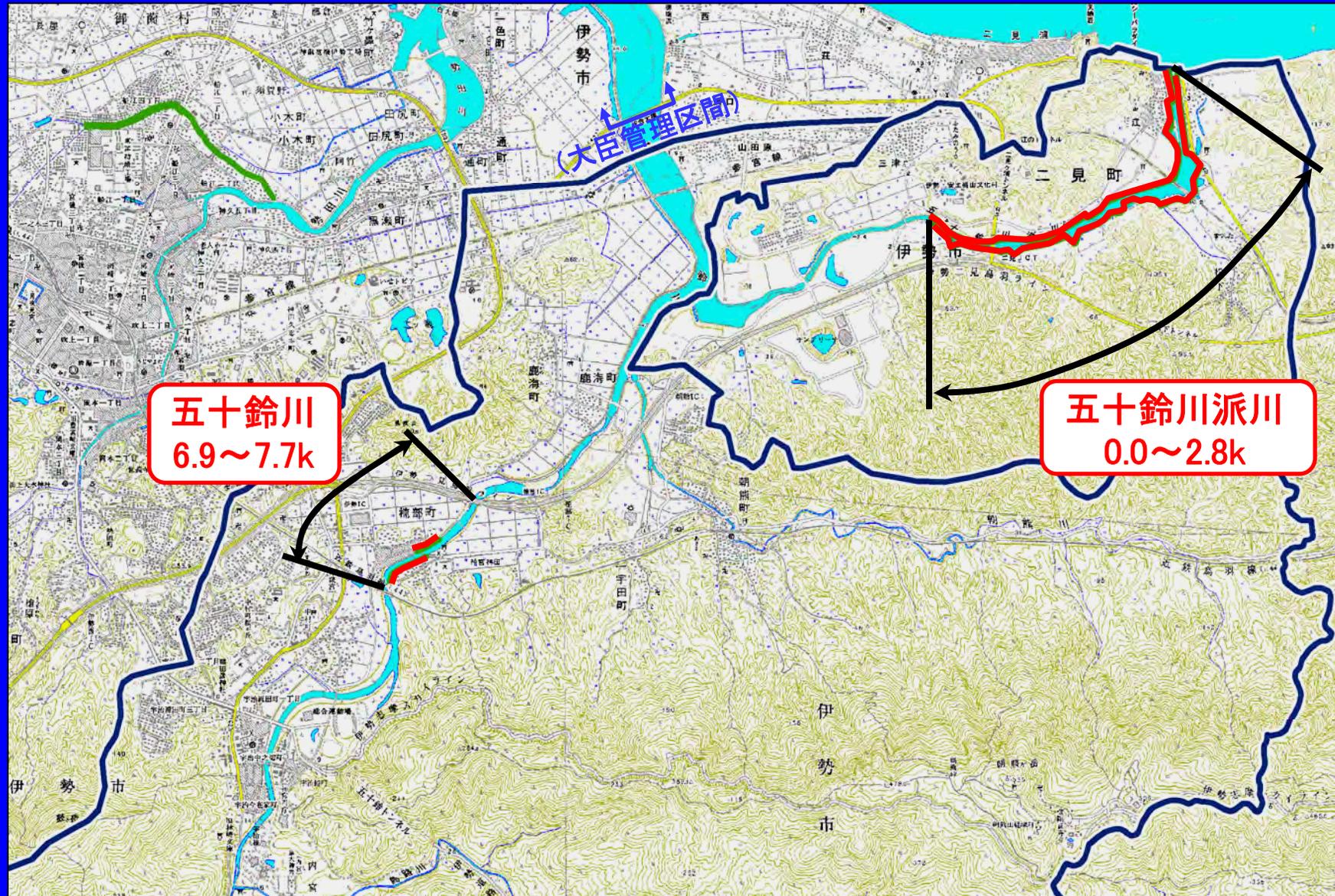
河川工事の施工の場所と主な工事内容

- 河川整備計画で対象とする河川工事の施工箇所は、河道流下能力が不足している区間のうち、沿川の土地利用状況や浸水被害の状況を考慮して設定する。

河川名	区 間	主な工事内容
五十鈴川	左岸 6.92k~7.46k 右岸 7.33k~7.70k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築、堰改築
	五十鈴川派川 両岸 0.0k~2.8k	
桧尻川	両岸 0.0k~1.6k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築
大内山川	両岸 6.2k~8.3k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸
	両岸 8.3k~11.0k	
	両岸 16.1k~18.15k	
横輪川	両岸 0.0k~1.215k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、引堤、護岸 築堤（バック堤） 橋梁改築、樋管改築
	両岸 0.0k~0.606k	

■五十鈴川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所



■五十鈴川・五十鈴川派川

■五十鈴川・五十鈴川派川の流下能力不足箇所

- ・楠部地区は、橋梁がネックとなり川幅が狭く堤防高も不足している。
- ・派川では、河道幅は確保できているが、高さが不足している。

流下障害となっている橋梁(五十鈴橋)



高さの不足している堤防



堤防高-余裕高評価で流下能力不足箇所

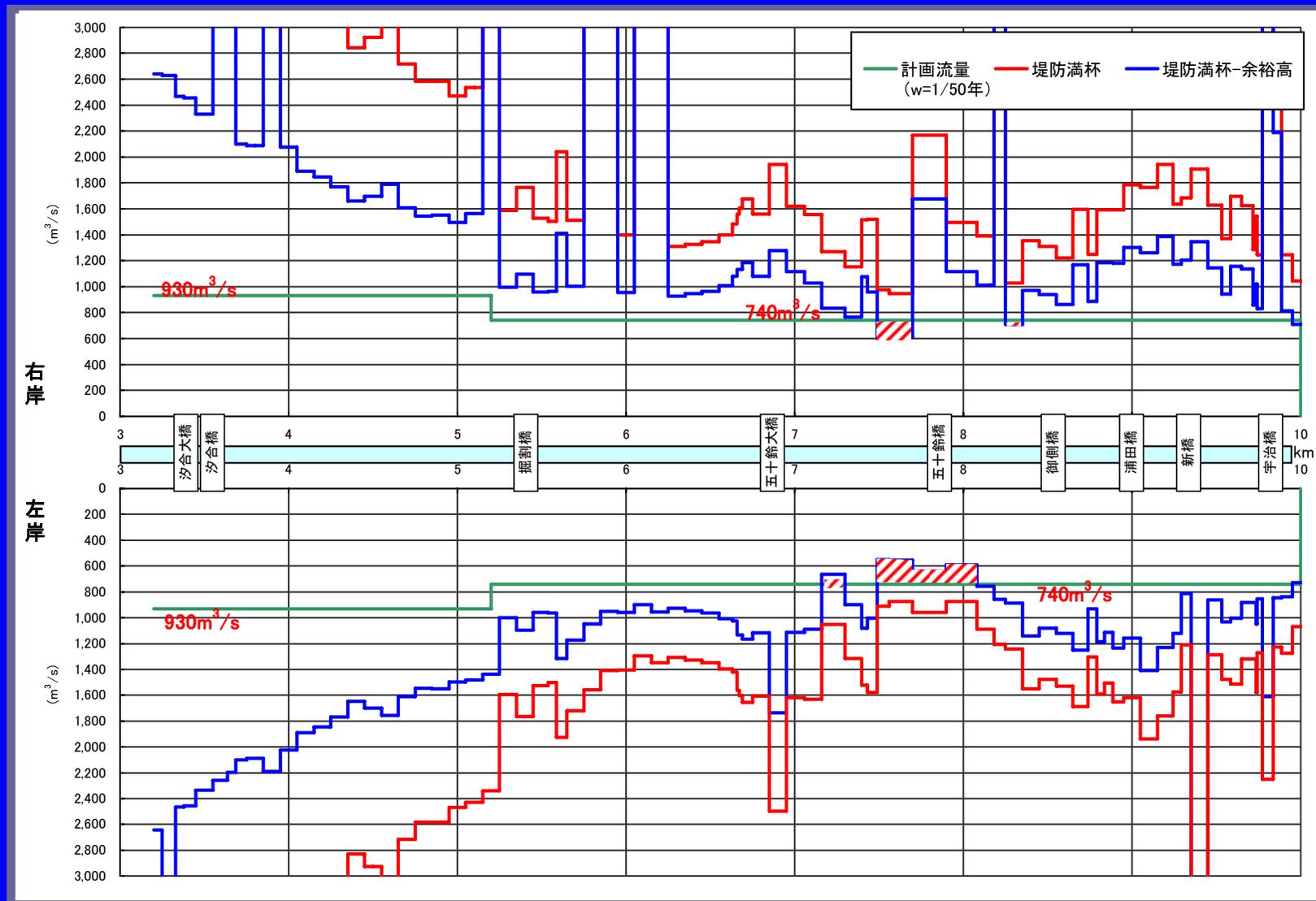


堤防高-余裕高評価で流下能力不足箇所

■五十鈴川

■五十鈴川の流下能力

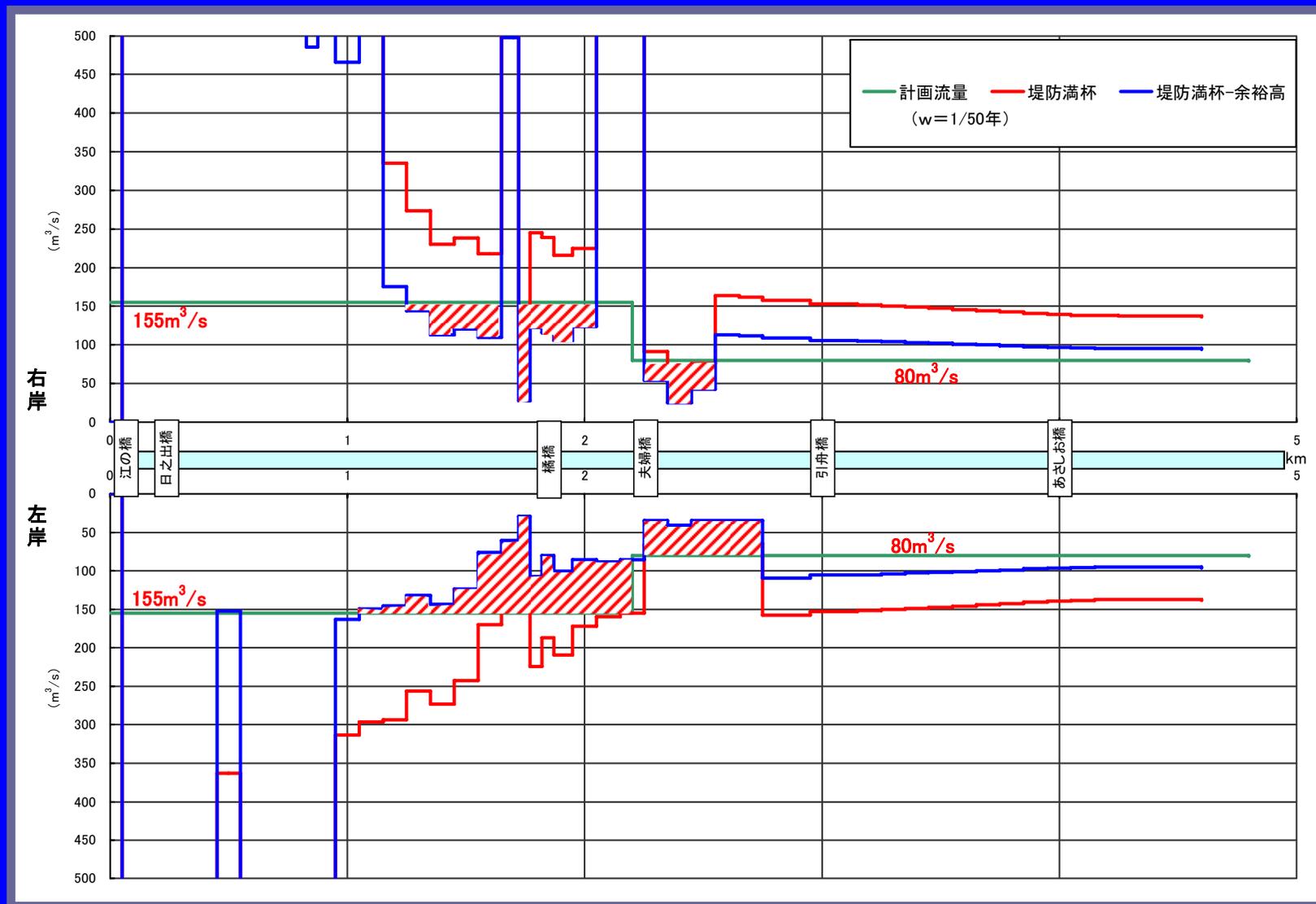
- ・楠部地区(7~8km付近)で流下能力が不足している。



■五十鈴川派川

■五十鈴川派川の流下能力

- ・特に橋梁部付近で流下能力が不足している。



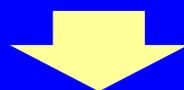
■五十鈴川・五十鈴川派川

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

➤整備計画目標設定の観点

既往の主要洪水と同規模の氾濫被害を防止する観点から既往計画との整合を図る。



既往洪水の確率規模

- ・最大の既往洪水（S49.7）の確率規模が、 $W=1/40$ である。
- ・五十鈴川の改修事業は全体計画 $W=1/50$ に基づき実施している。

➤五十鈴川の整備計画の目標規模の設定

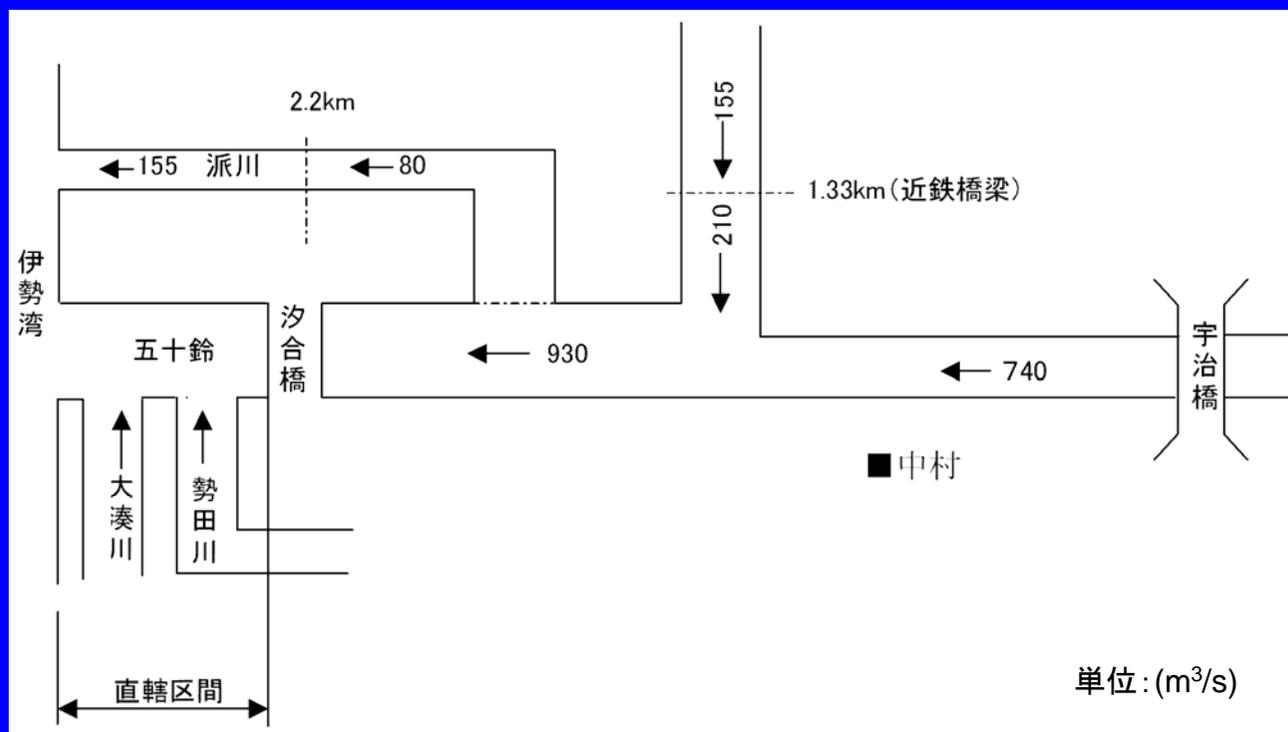
五十鈴川の整備計画における目標規模は、全体計画規模と同じ、概ね50年に1度発生する洪水を安全に流下させることを目標とする。

■五十鈴川

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

整備計画における計画流量配分は以下のとおりとする。



■五十鈴川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所

●主要な改修内容平面図（五十鈴川）



■五十鈴川派川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所

●主要な改修内容平面図（五十鈴川派川）



■五十鈴川

河川整備の実施に関する事項

河川環境の整備と保全に関する目標

●水系全体

河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、河川が本来有する動植物の生息・生育・繁殖環境の保全と整備に努める。

●五十鈴川

五十鈴川は、伊勢神宮と深いかわりをもつ川のため、その歴史、風土、景観、人との関わりを流域と一体となって保全していく。また、下流部においても散策路の整備など親水性の確保、干潟や水辺の植生など水辺環境の保全に努める。

遷宮の川曳き



伊勢神宮(内宮)の御手洗場



ヨシと干潟



イトモロコ



親水整備

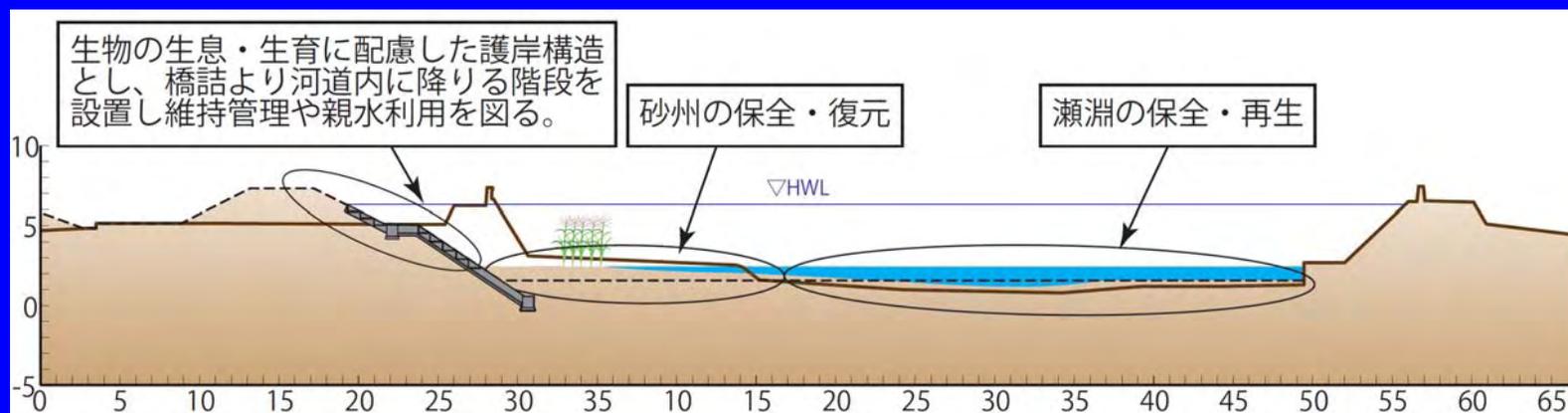


■五十鈴川

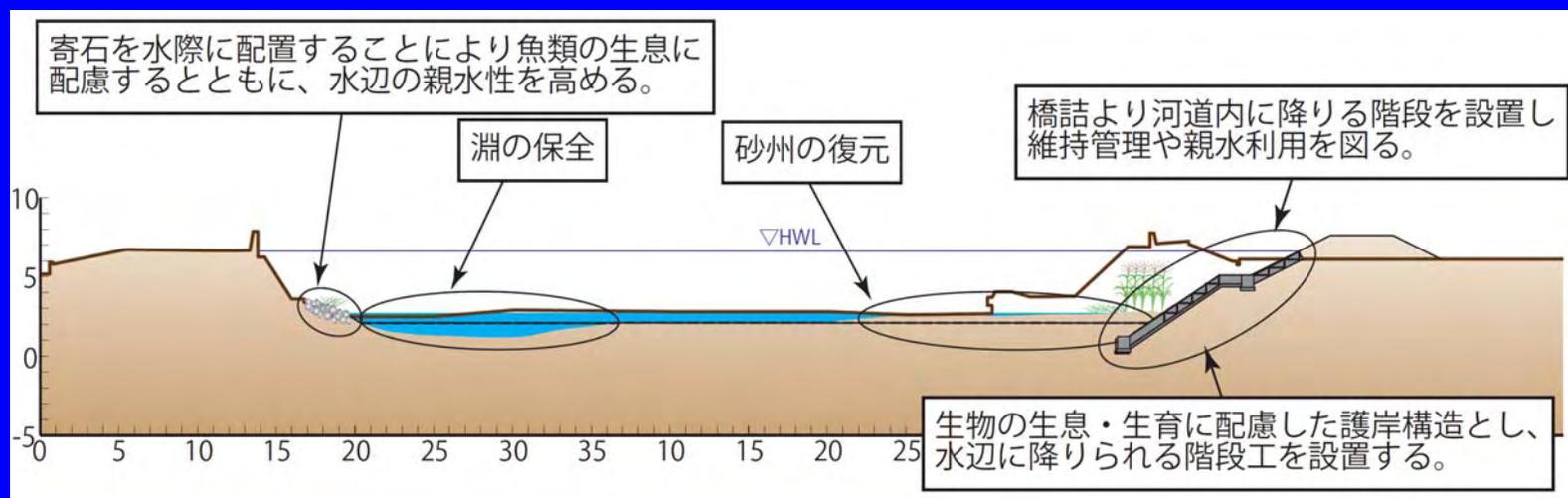
河川整備の実施に関する事項 主要工事の概要(改修イメージ図)

●整備箇所における河川環境への配慮事項

・楠部工区 7.28k付近



・楠部工区 7.48k付近

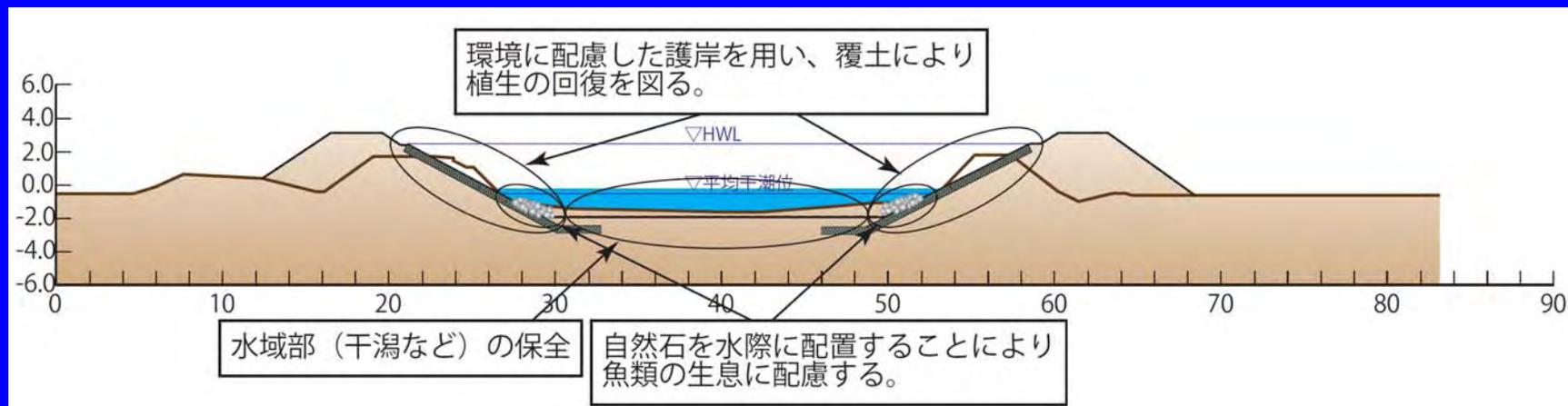


■五十鈴川派川

河川整備の実施に関する事項 主要工事の概要(改修イメージ図)

●整備箇所における河川環境への配慮事項

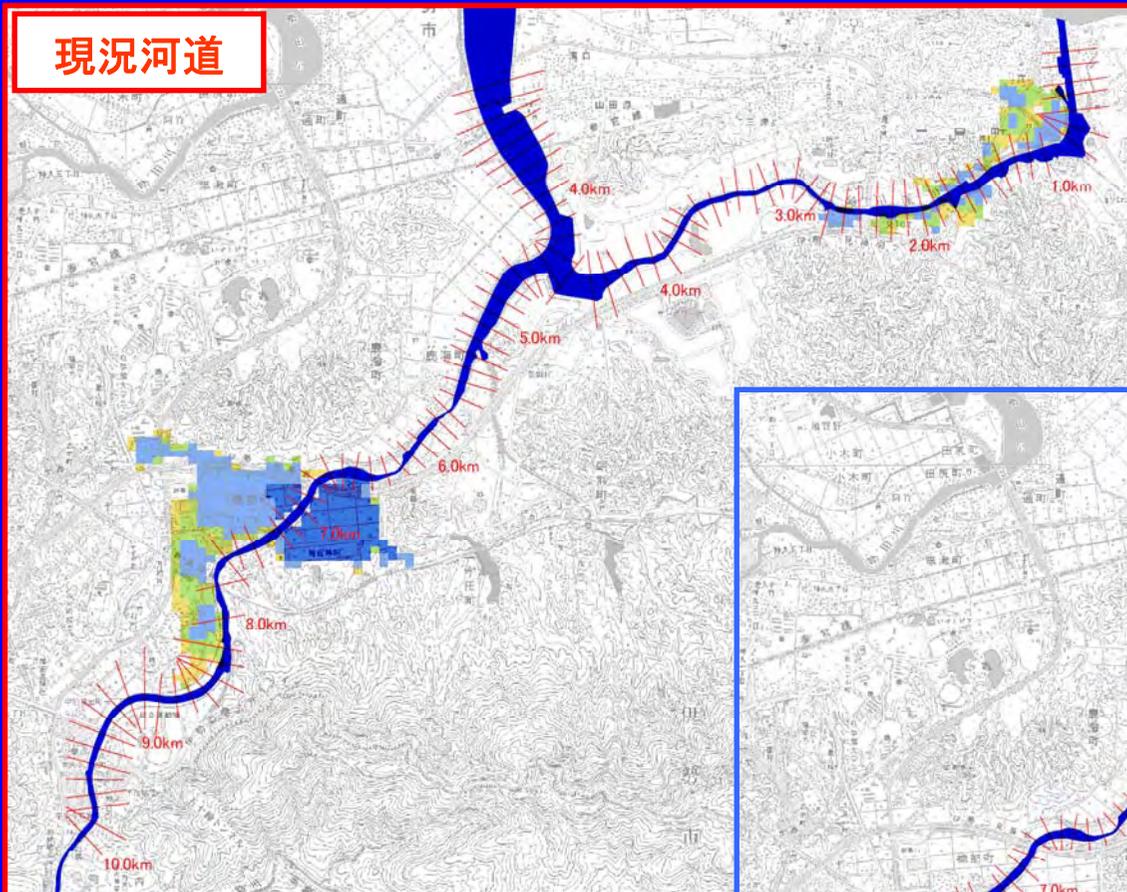
- ・五十鈴川派川
1.2~1.7k付近



■五十鈴川

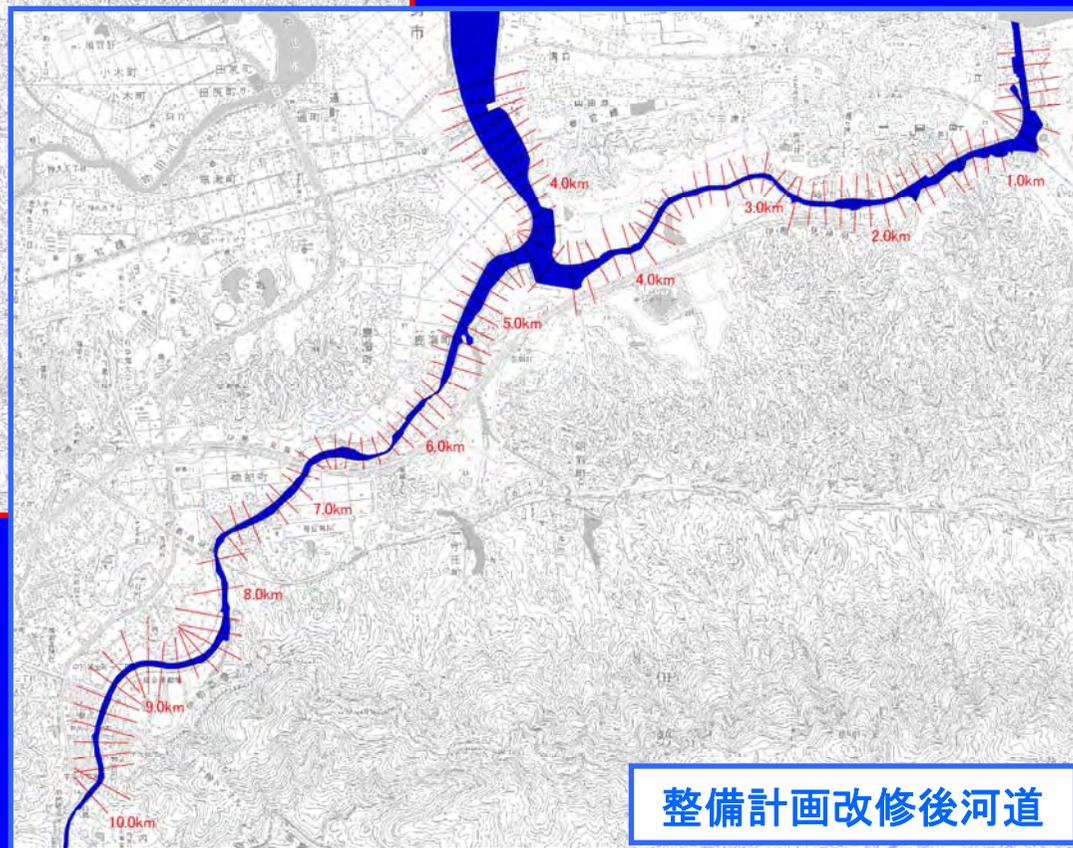
河川整備による効果

現況河道



○整備計画により、五十鈴川及び五十鈴川派川の浸水被害は解消される

整備計画規模による氾濫解析



凡例

- 0.5m未満
- 0.5 ~ 1.0m未満
- 1.0 ~ 2.0m未満
- 2.0 ~ 5.0m未満
- 5.0m以上

※河川からの越水・破堤による浸水を対象としている

整備計画改修後河道

河川整備計画の目標に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

— 正 常 流 量 —

五十鈴川の河川の適正な利用については、今後とも関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努めるとともに、綿密な情報提供等、水利用の効率化を促進し、さらに、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境が維持・改善されることを目標とする。

また、流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後も流況の把握を行うとともに取水実態や動植物の生息・生育・繁殖環境等の調査を行い、設定に努めるものとする。

4.3 桧尻川整備計画（案）の概要

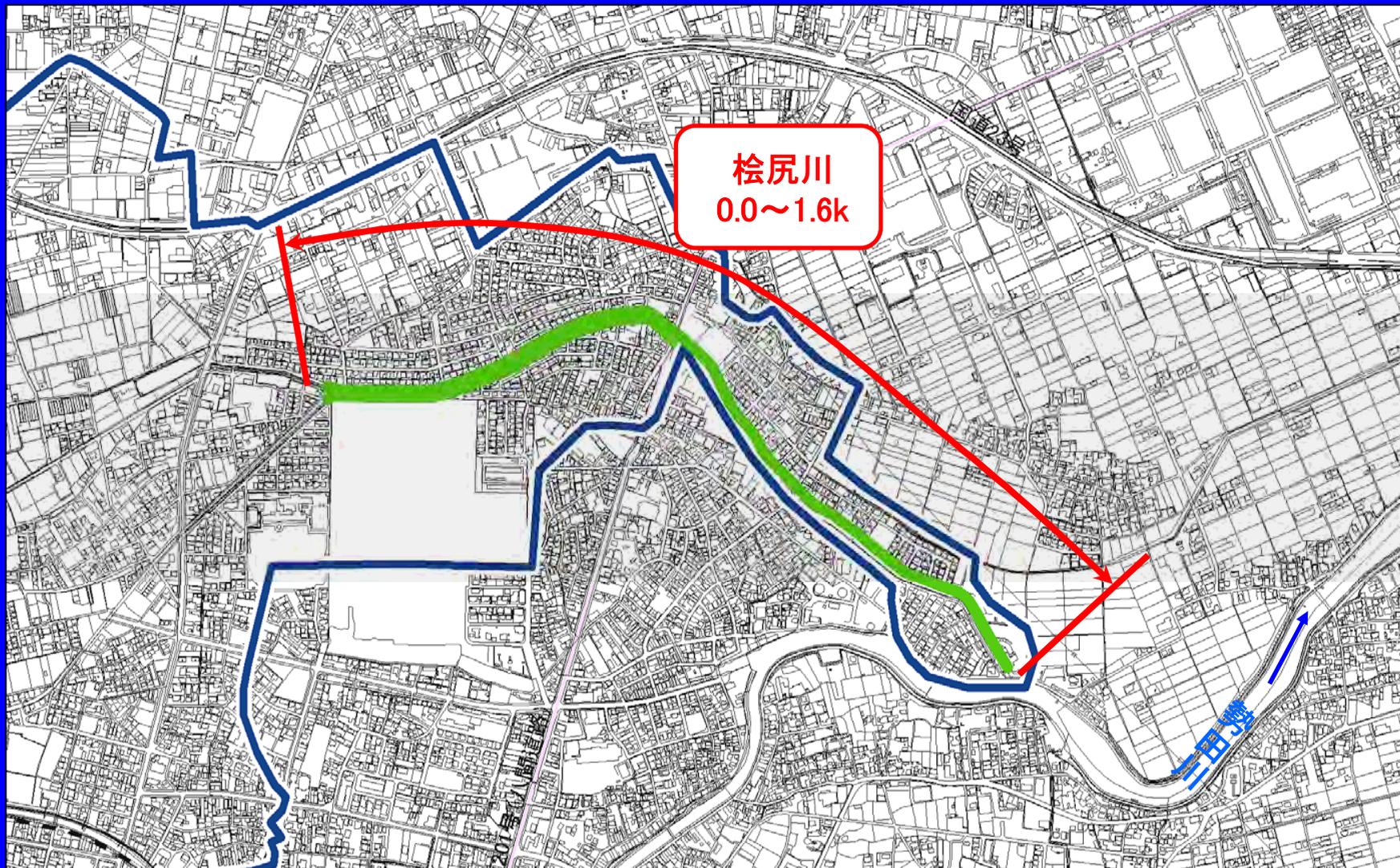
河川工事の施工の場所と主な工事内容

- 河川整備計画で対象とする河川工事の施工箇所は、河道流下能力が不足している区間のうち、沿川の土地利用状況や浸水被害の状況を考慮して設定する。

河川名	区 間	主な工事内容
五十鈴川	左岸 6.92k~7.46k 右岸 7.33k~7.70k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築、堰改築
	五十鈴川派川 両岸 0.0k~2.8k	
桧尻川	両岸 0.0k~1.6k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築
大内山川	両岸 6.2k~8.3k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、引堤、護岸、築堤
	両岸 8.3k~11.0k	
	両岸 16.1k~18.15k	
横輪川	両岸 0.0k~1.215k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、引堤、護岸 築堤（バック堤） 橋梁改築、樋管改築
	両岸 0.0k~0.606k	

■ 桧尻川

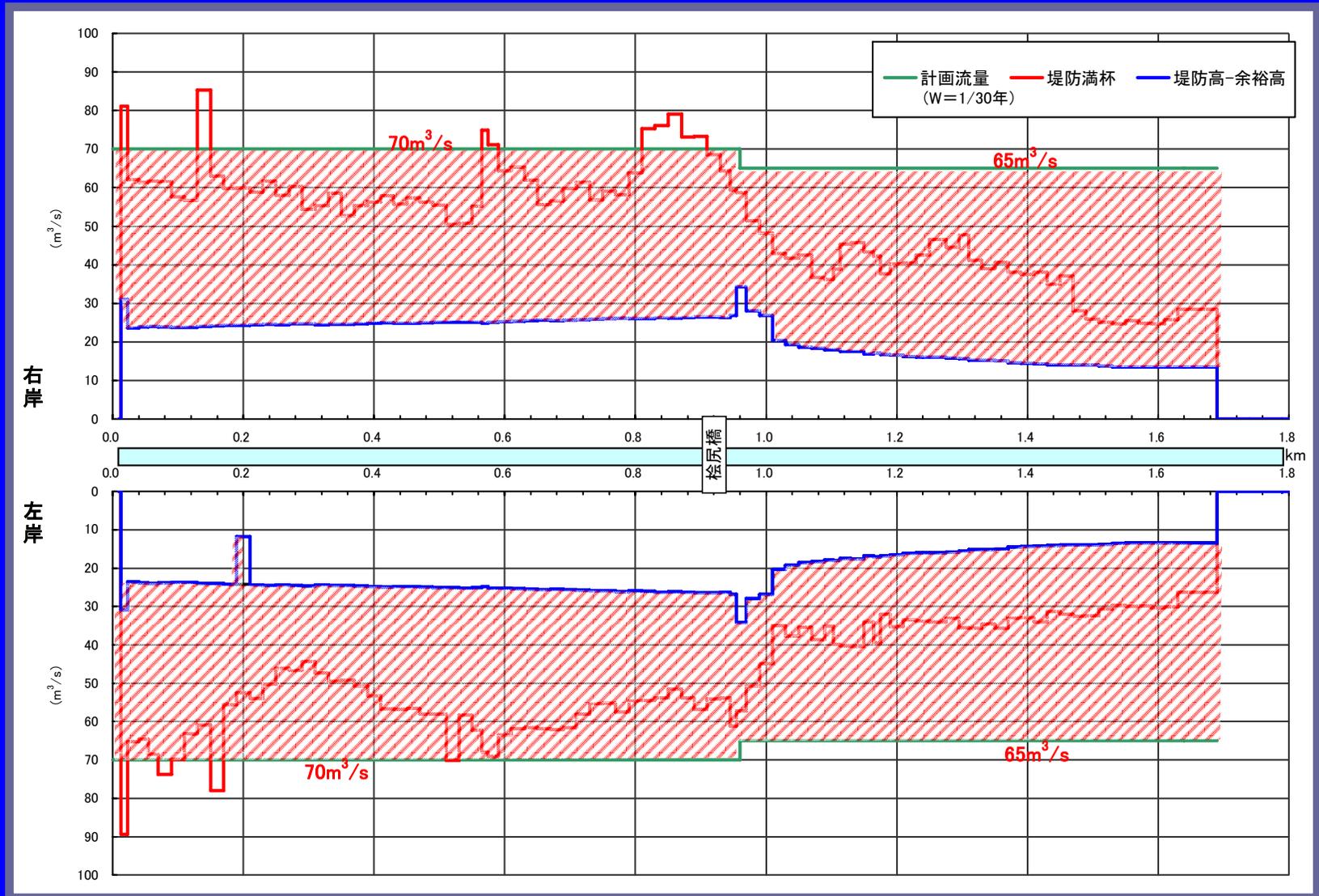
河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所



■ 桧尻川

■ 桧尻川の流下能力

- ・ほぼ全川に渡って流下能力が不足している。



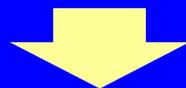
■ 桧川

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

➤ 整備計画目標設定の観点

- ① 三重県内の指標から見た治水安全度バランスを考慮して目標の整備計画規模を設定する。
- ② 既往主要洪水と同規模の氾濫被害を防止する観点から既往計画との整合を図る。



- ① 三重県内の指標からみた治水安全度（整備計画規模）
 - ・ 三重県内の指標からみた治水安全度では概ね1/30となる。
- ② 既往洪水の確率規模
 - ・ 近年最大洪水である平成3年9月洪水を短時間降雨で評価すると確率規模が、 $W=1/10$ である。

➤ 桧川の整備計画の目標規模の設定

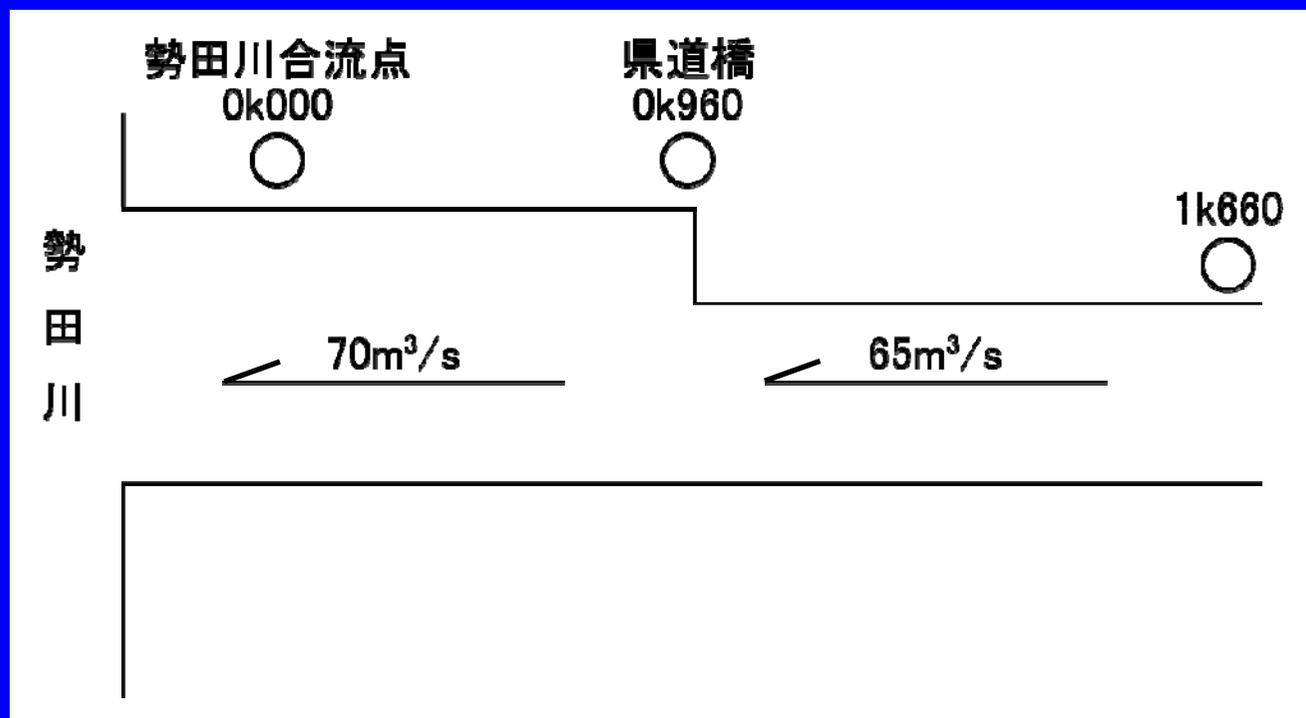
桧川の整備計画における目標規模は、整備計画規模と同じ概ね30年に1度発生する洪水に対して外水氾濫による浸水被害を防止することを目標とする。

■ 桧尻川

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

整備計画における計画流量配分は以下のとおりとする。



■ 桧尻川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所

● 主要な改修内容平面図



■ 桧尻川

河川整備の実施に関する事項

河川環境の整備と保全に関する目標

● 水系全体

河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、河川が本来有する動植物の生息・生育・繁殖環境の保全と整備に努める。

● 桧尻川

桧尻川は、地域住民に親しまれている桜並木があることから、工事を行う際には桜並木の保全・復元に努めるとともに、沿川の地域づくりと連携し連携し、親水整備を図る。

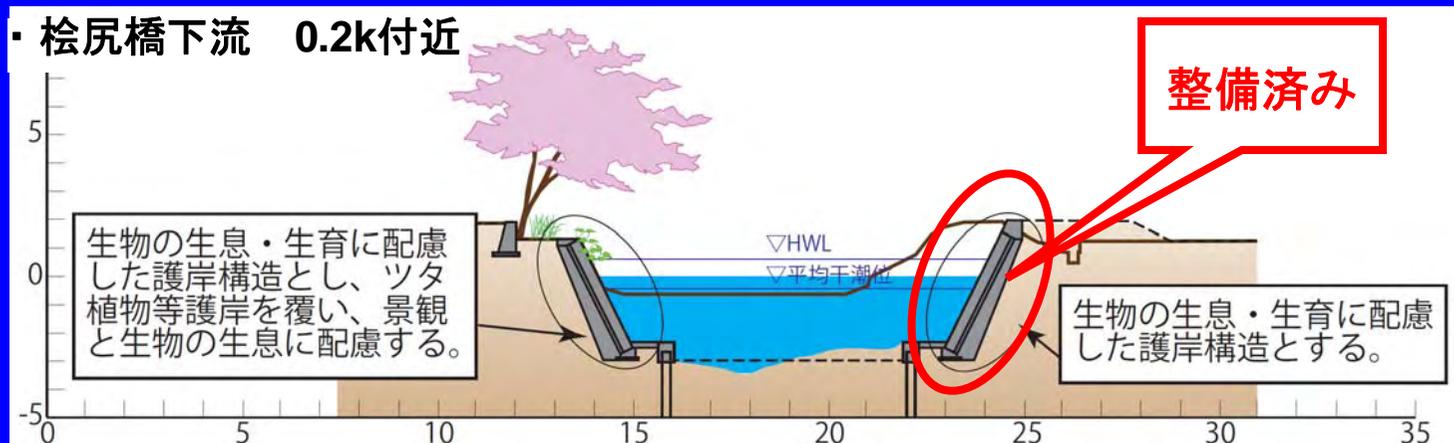


■ 桧尻川

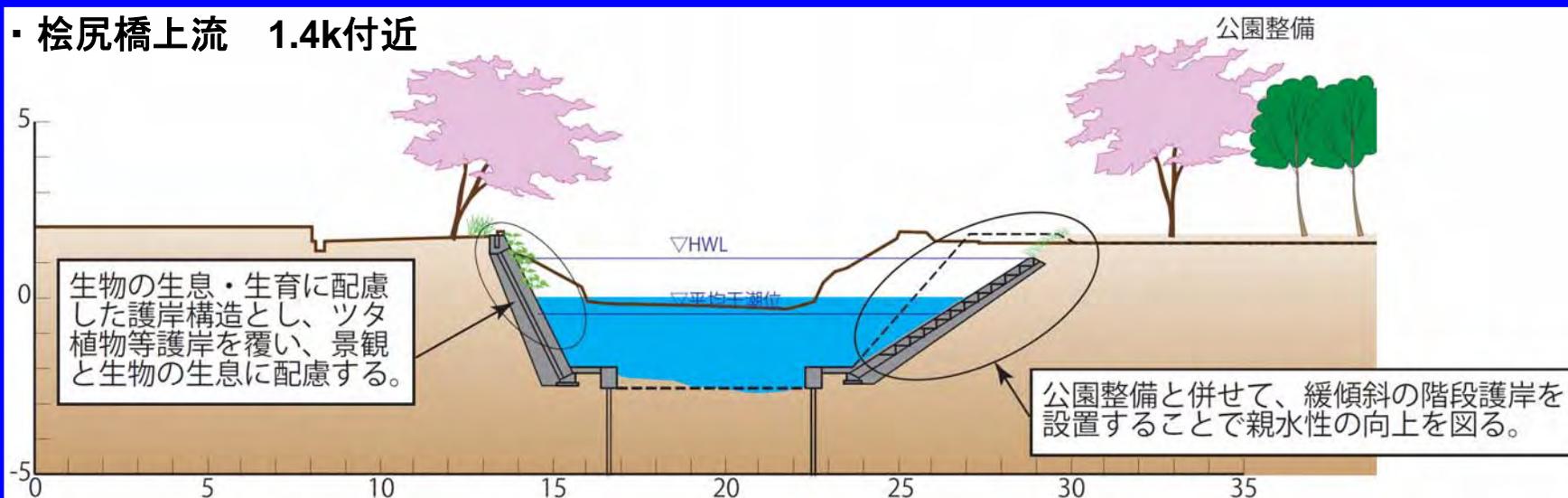
河川整備の実施に関する事項 主要工事の概要(改修イメージ図)

● 整備箇所における河川環境への配慮事項

・ 桧尻橋下流 0.2k付近

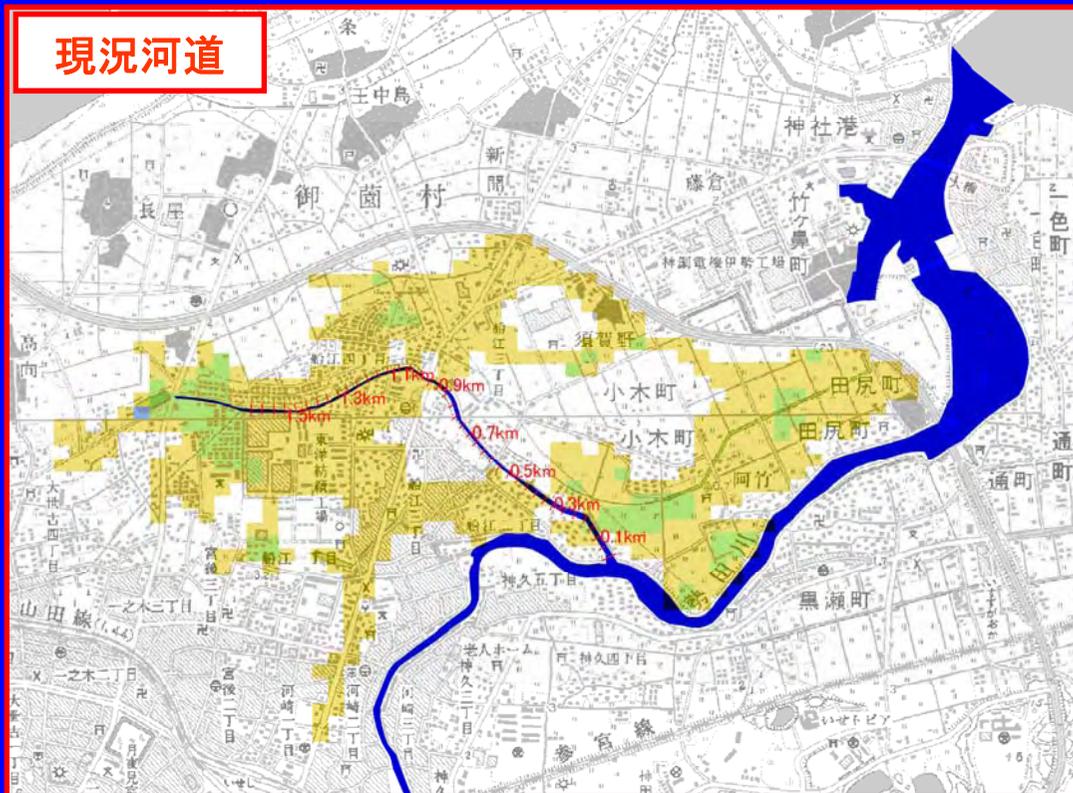


・ 桧尻橋上流 1.4k付近



■ 桧尻川

河川整備による効果



凡例

■ (Yellow)	0.5m未満
■ (Green)	0.5 ~ 1.0m未満
■ (Light Blue)	1.0 ~ 2.0m未満
■ (Dark Blue)	2.0 ~ 5.0m未満
■ (Black)	5.0m以上

※河川からの越水・破堤による浸水を対象としている

○整備計画により、桧尻川の浸水被害は解消される

整備計画規模による氾濫解析



整備計画改修後河道

■ 桧尻川

河川整備計画の目標に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

正 常 流 量

桧尻川においては、感潮区間であり流量管理が出来ないことから、流水の正常な機能を維持するための必要な流量を設定することは非常に困難である。

一方で、地元住民からも水質の改善が強く望まれている河川でもあることから、関係機関との連携のもと、良好な水環境へ改善できるよう努めるものとする。

4.4 大内山川整備計画（案）の概要

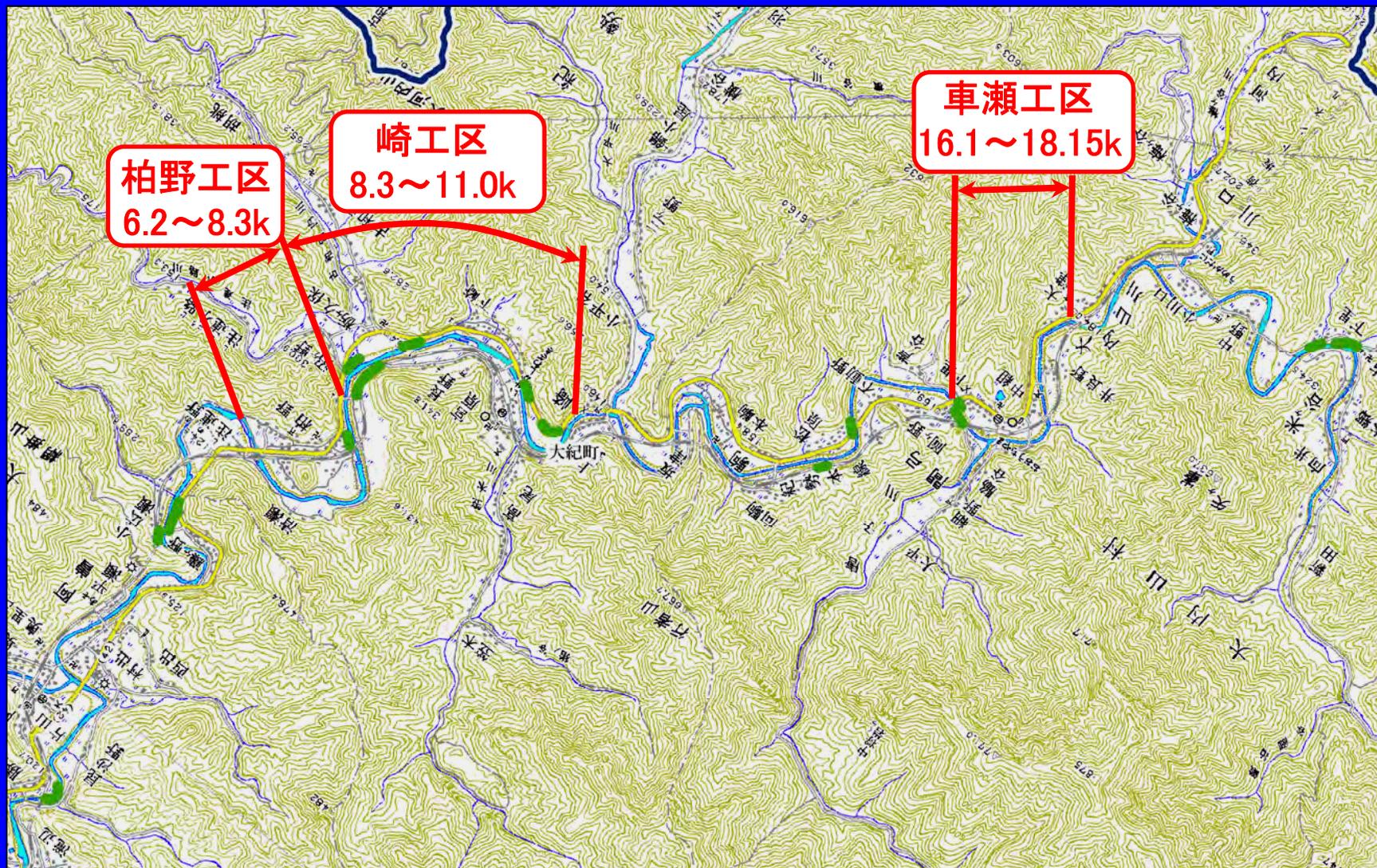
河川工事の施工の場所と主な工事内容

- 河川整備計画で対象とする河川工事の施工箇所は、河道流下能力が不足している区間のうち、沿川の土地利用状況や浸水被害の状況を考慮して設定する。

河川名	区 間	主な工事内容
五十鈴川	左岸 6.92k~7.46k 右岸 7.33k~7.70k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築、堰改築
	五十鈴川派川 両岸 0.0k~2.8k	
桧尻川	両岸 0.0k~1.6k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築
大内山川	両岸 6.2k~8.3k 両岸 8.3k~11.0k 両岸 16.1k~18.15k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸
横輪川	両岸 0.0k~1.215k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、引堤、護岸 築堤（バック堤） 橋梁改築、樋管改築
	両岸 0.0k~0.606k	

■大内山川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所



■大内山川

■大内山川の流下能力不足箇所

- ・川沿いに人家や田畑が不連続に分布しており、流下能力の不足する箇所が残っている。

両岸未改修

柳原橋上流



未改修の河岸(9km付近左岸)

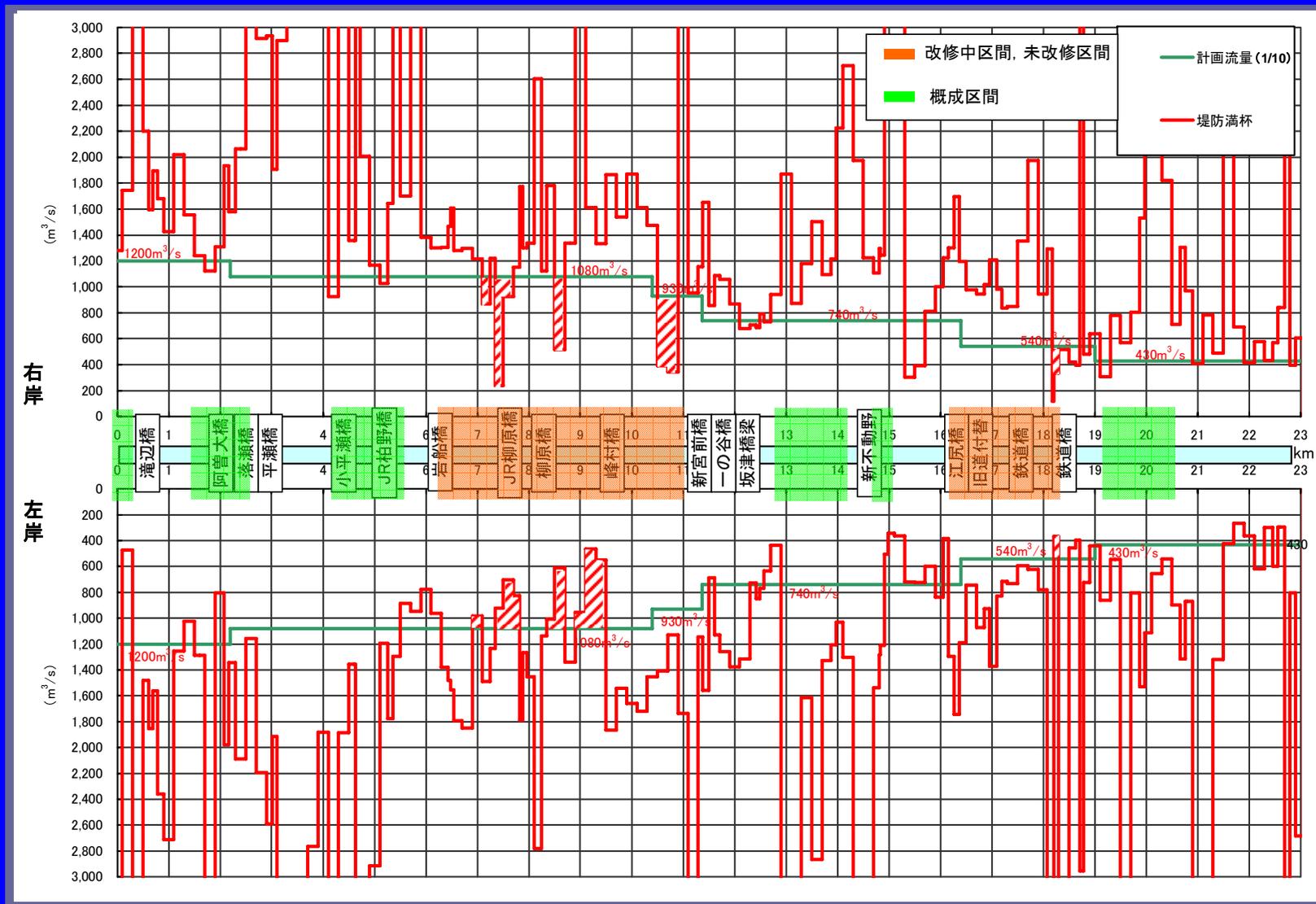


未改修の河岸

■大内山川

■大内山川の流下能力

・7～11km付近で特に流下能力が不足している。

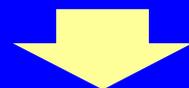


河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

➤整備計画目標設定の観点

- ① 三重県内の指標から見た治水安全度バランスを考慮して目標の整備計画規模を設定する。
- ② 既往主要洪水と同規模の氾濫被害を防止する観点から既往計画との整合を図る。



- ① 三重県内の指標からみた治水安全度（整備計画規模）
 - ・ 三重県内の指標からみた治水安全度では概ね1/30となる。
- ② 既往洪水の確率規模
 - ・ 近年最大洪水である平成16年9月洪水の確率規模が、概ね $W=1/30$ である。

➤大内山川の整備計画の目標規模の設定

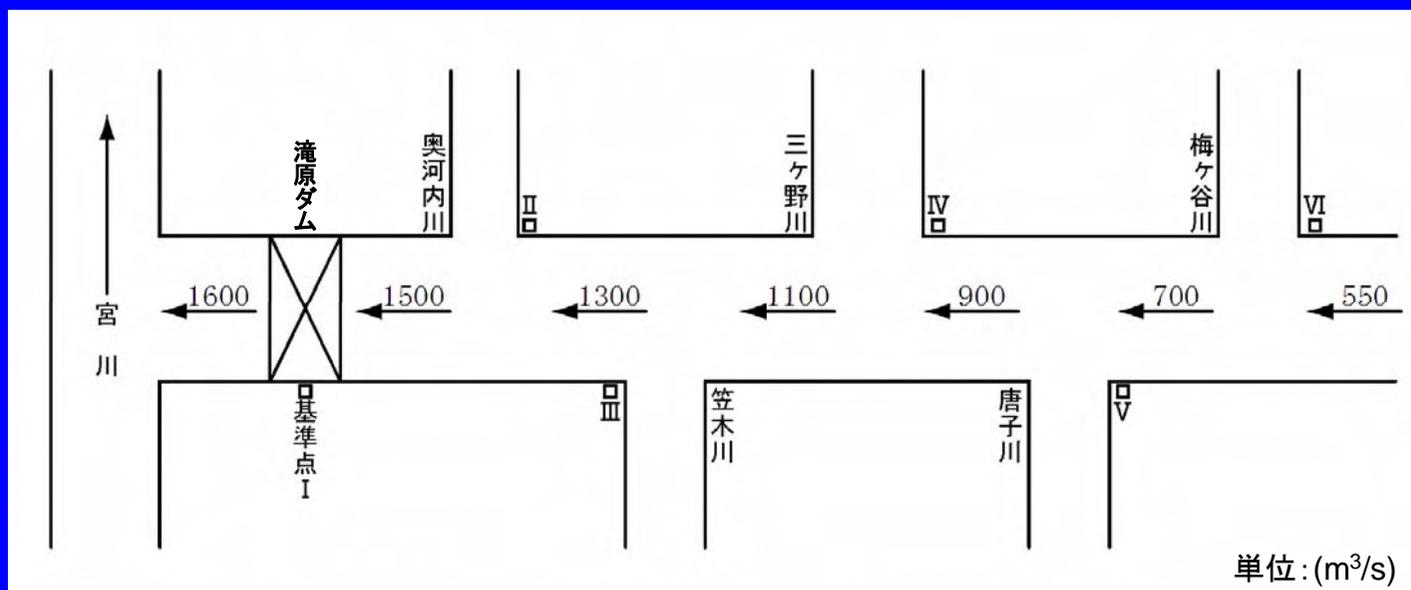
大内山川の整備計画における目標規模は、整備計画規模と同じ概ね30年に1度発生する洪水に対して外水氾濫による浸水被害を軽減することを目標とする。

■大内山川

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

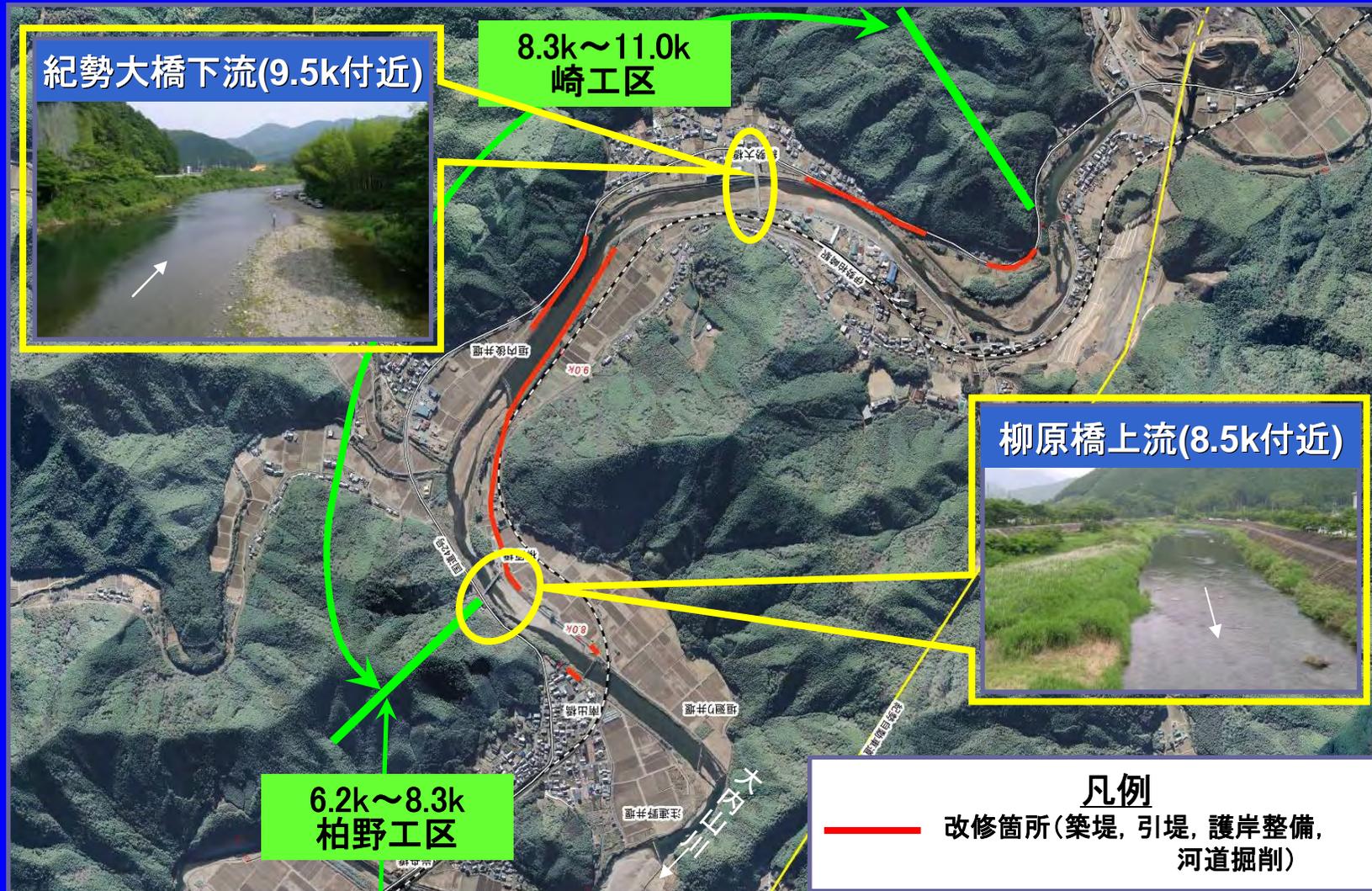
整備計画における計画流量配分は以下のとおりとする。



■大内山川(柏野工区・崎工区)

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所

●主要な改修内容平面図①



■大内山川(車瀬工区)

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所

●主要な改修内容平面図②



■大内山川

河川整備の実施に関する事項

河川環境の整備と保全に関する目標

●水系全体

河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、河川が本来有する動植物の生息・生育・繁殖環境の保全と整備に努める。

●大内山川

大内山川は山間部を蛇行して流れ、国の天然記念物に指定されているネコギギのほか、アカザ、アユ等が生息し、良好な河川環境を維持している。このため、現状の瀬淵、水際の植生、河畔林等を保全し、魚類を初めとする多くの動植物の生息・生育・繁殖環境を保全する。また、アユやモクズガニの遡上のため、堰を改修する場合には魚道を設け魚ののぼりやすい川づくりを行う。河川工事に当たっては、現状の河道の改変を極力避け、護岸を設ける場合には、ネコギギ等の隠れ家を創出する等の工夫を行う。

ネコギギ



アカザ

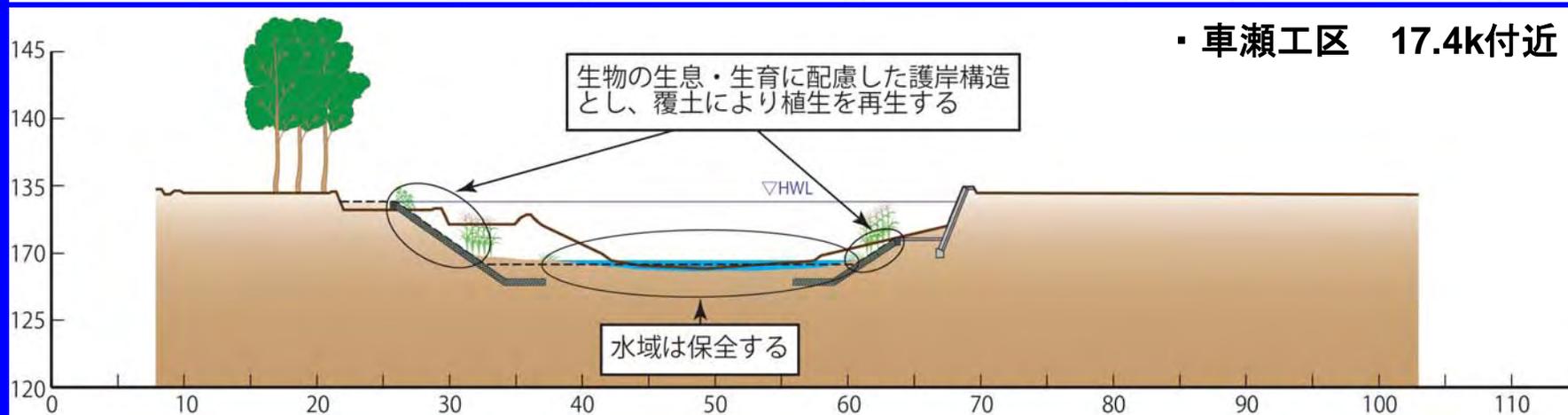
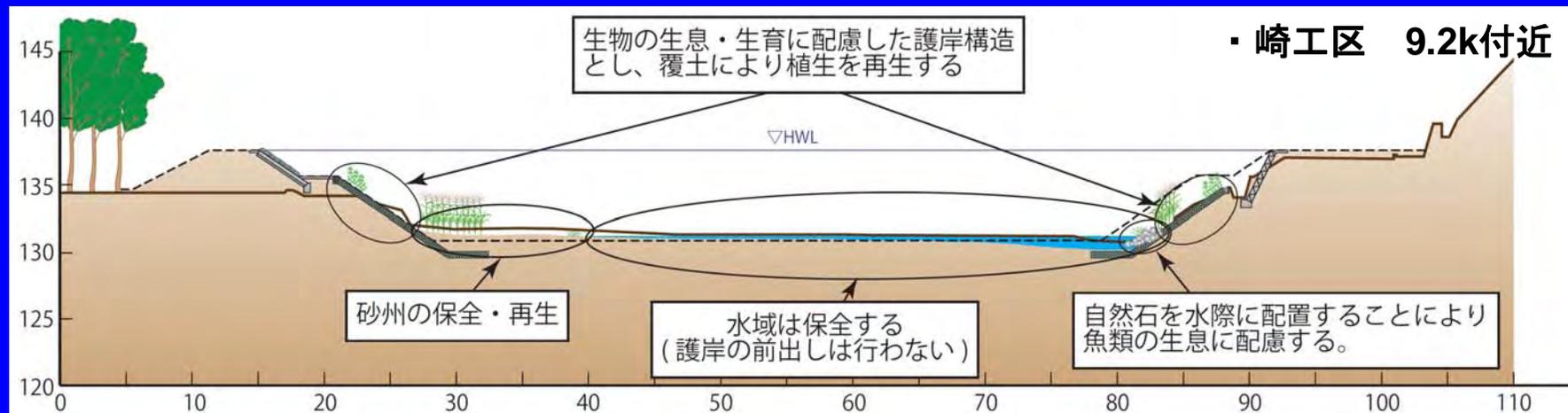


アユ釣り

■大内山川(柏野工区・崎工区・車瀬工区)

河川整備の実施に関する事項 主要工事の概要(改修イメージ図)

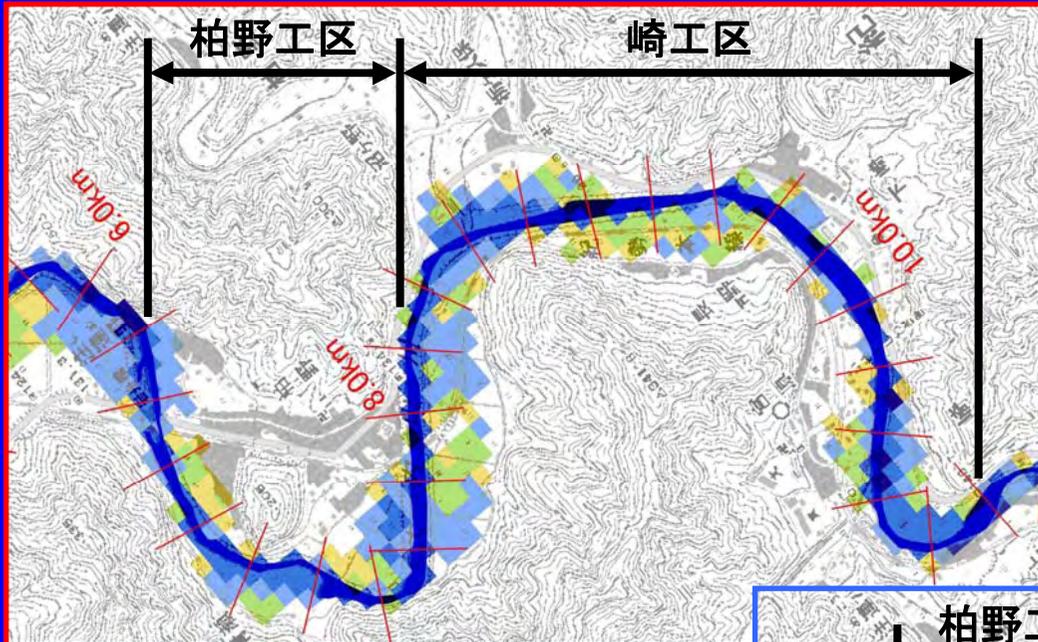
●整備箇所における河川環境への配慮事項



※ネコギギの生息も確認されていることから、設計段階において専門家の意見を伺い、自然環境に配慮する。また、工事施工後においてもモニタリング調査を実施することとする。

■大内山川(柏野工区・崎工区)

河川整備による効果



現況河道

凡例

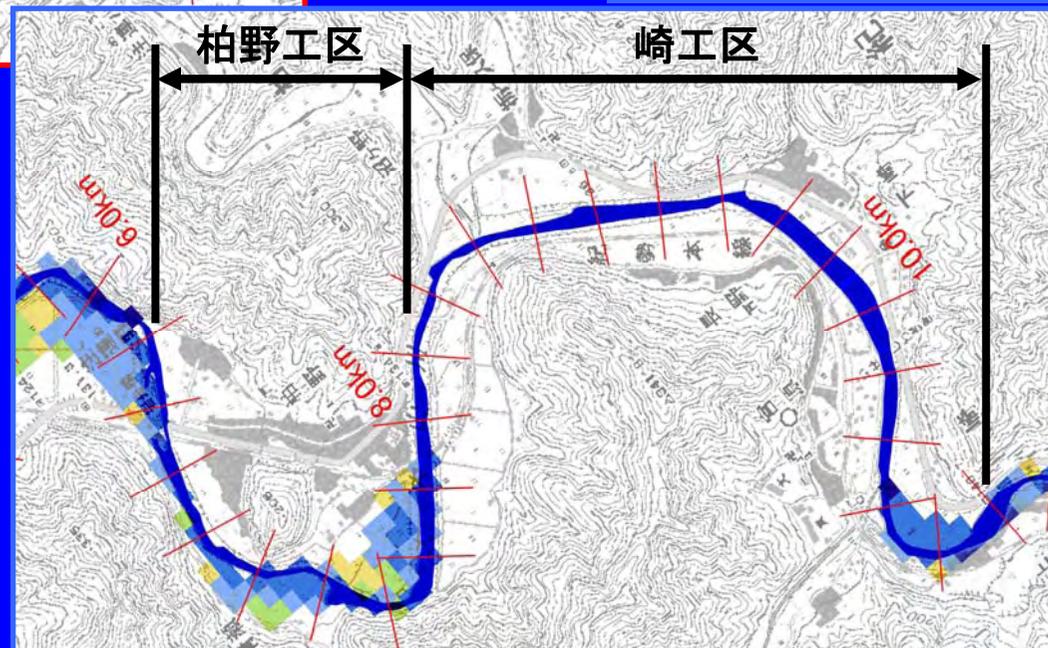
- 0.5m未満
- 0.5 ~ 1.0m未満
- 1.0 ~ 2.0m未満
- 2.0 ~ 5.0m未満
- 5.0m以上

※河川からの越水・破堤による浸水を対象としている

○整備計画により、柏野工区及び崎工区の浸水被害は軽減される。

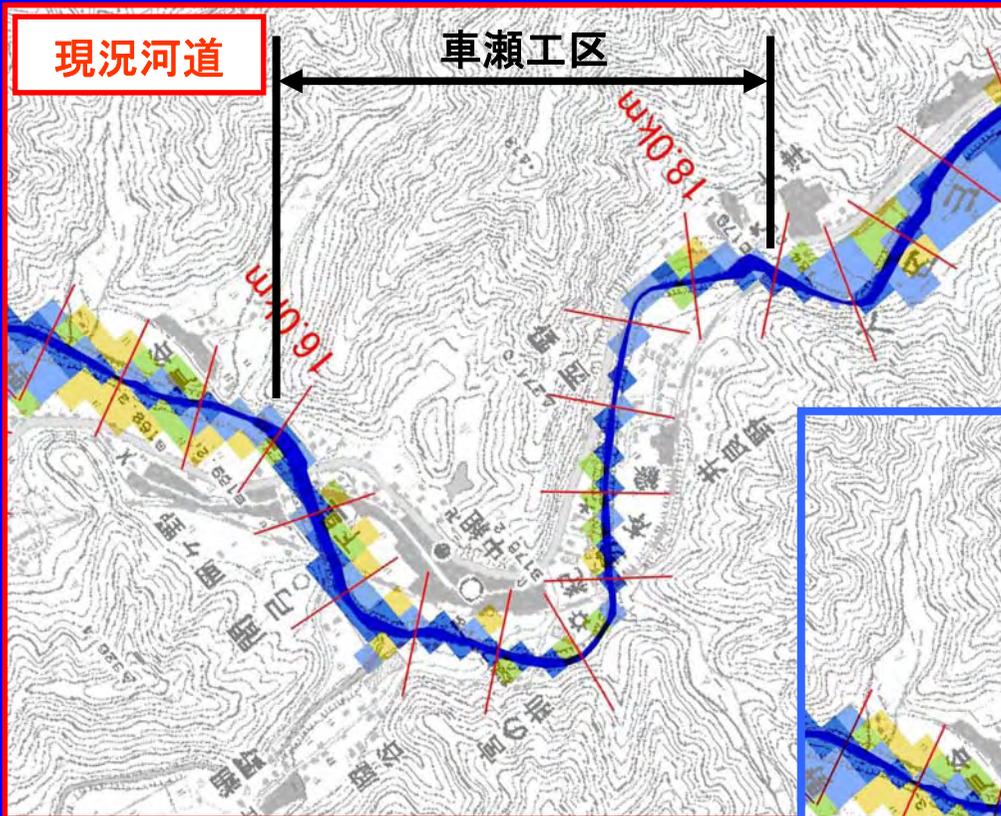
整備計画規模による氾濫解析

整備計画改修後河道



■大内山川(車瀬工区)

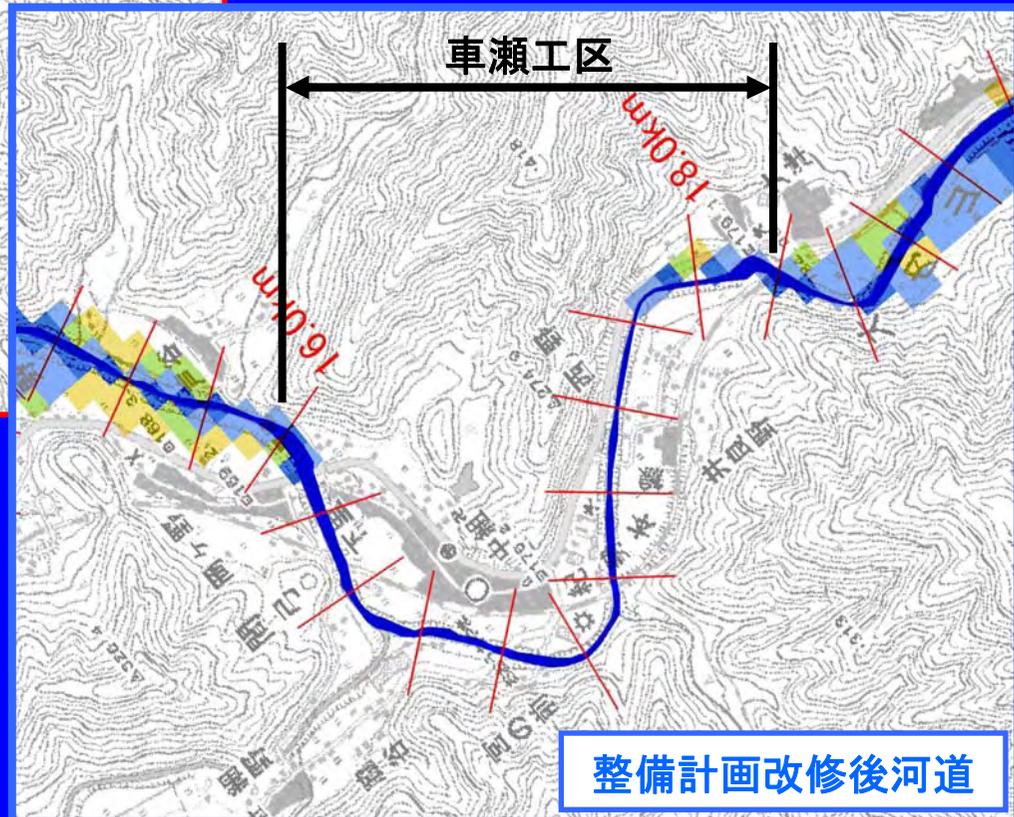
河川整備による効果



○整備計画により、車瀬工区の浸水被害は軽減される。

整備計画規模による氾濫解析

凡例	
■	0.5m未満
■	0.5 ~ 1.0m未満
■	1.0 ~ 2.0m未満
■	2.0 ~ 5.0m未満
■	5.0m以上



整備計画改修後河道

※河川からの越水・破堤による浸水を対象としている

■大内山川

河川整備計画の目標に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

— 正 常 流 量 —

大内山川の河川の適正な利用については、今後とも関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努めるとともに、綿密な情報提供等、水利用の効率化を促進し、さらに、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境が維持・改善されることを目標とする。

また、流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後も流況の把握を行うとともに取水実態や動植物の生息・生育・繁殖環境等の調査を行い、設定に努めるものとする。

4.5 横輪川整備計画（案）の概要

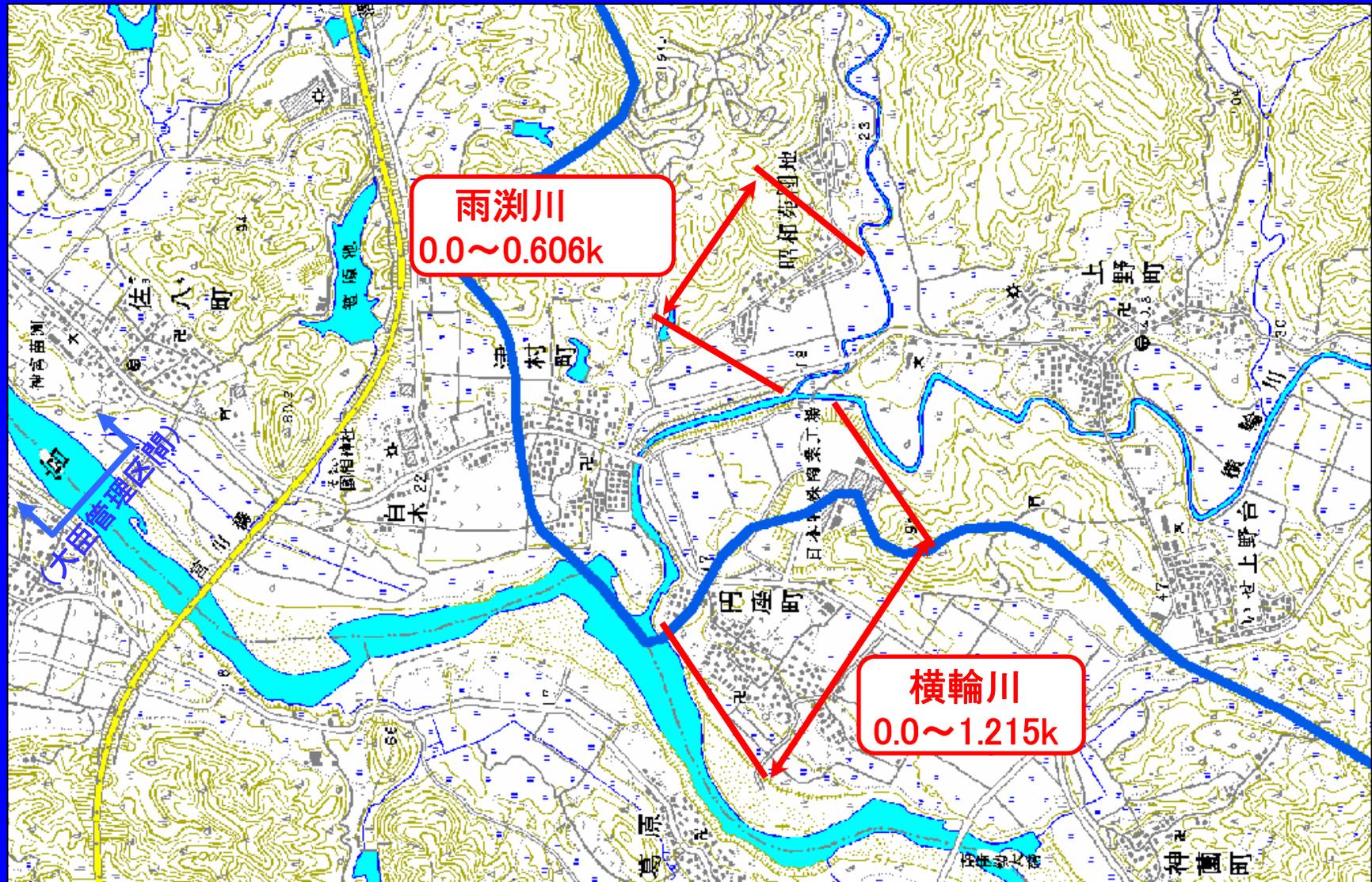
河川工事の施工の場所と主な工事内容

- 河川整備計画で対象とする河川工事の施工箇所は、河道流下能力が不足している区間のうち、沿川の土地利用状況や浸水被害の状況を考慮して設定する。

河川名	区 間	主な工事内容
五十鈴川	左岸 6.92k~7.46k 右岸 7.33k~7.70k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築、堰改築
	五十鈴川派川 両岸 0.0k~2.8k	
桧尻川	両岸 0.0k~1.6k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸 橋梁改築
大内山川	両岸 6.2k~8.3k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、築堤、引堤、護岸
	両岸 8.3k~11.0k	
	両岸 16.1k~18.15k	
横輪川	両岸 0.0k~1.215k	<ul style="list-style-type: none"> 掘削、引堤、護岸 築堤（バック堤） 橋梁改築、樋管改築
	雨湊川 両岸 0.0k~0.606k	

■横輪川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所



■横輪川

■横輪川の流下能力不足箇所

- ・堤防高が低いため、宮川の水が逆流して氾濫する。

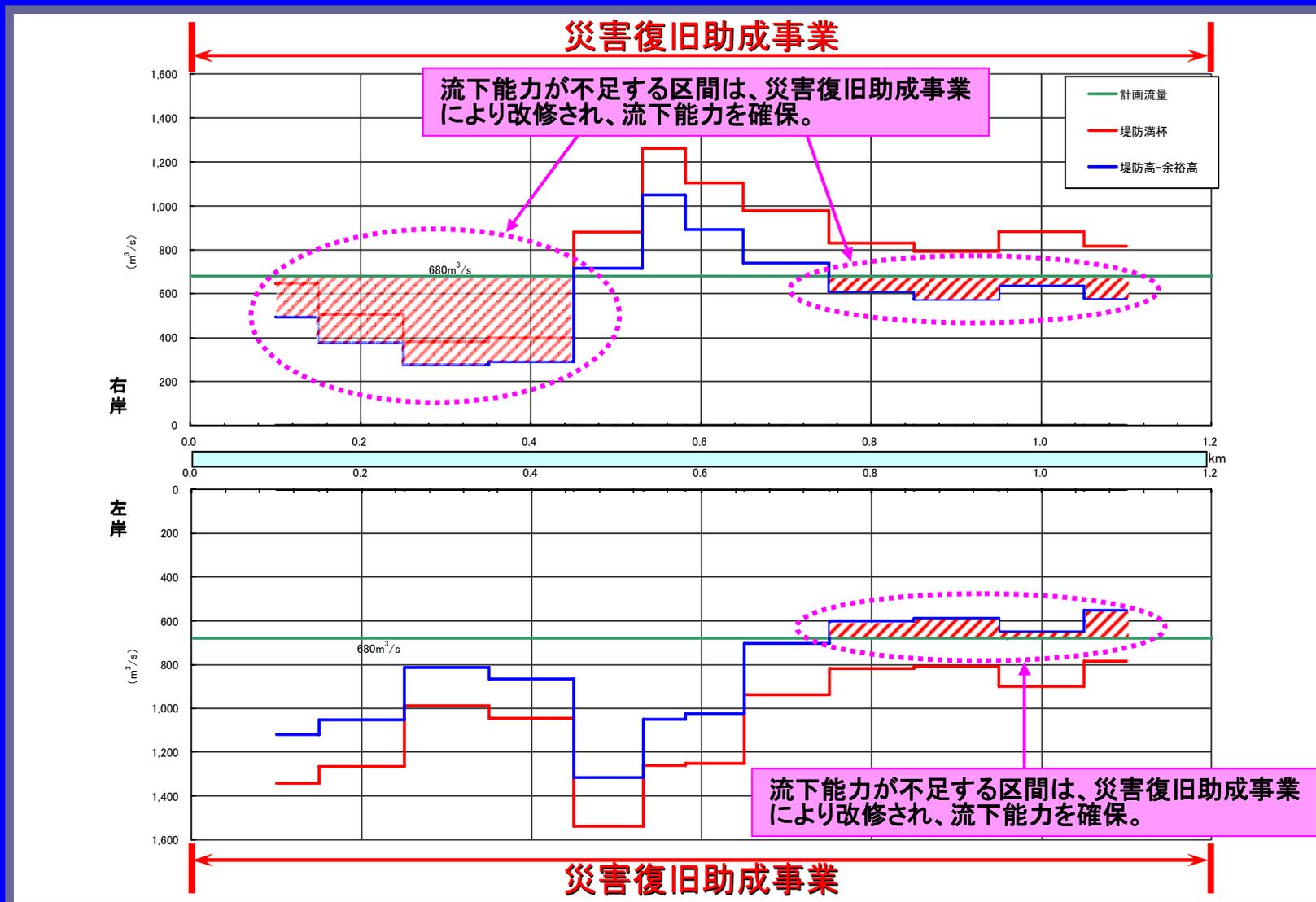
⇒災害助成事業により整備を完了



■横輪川

■横輪川の流下能力

- ・流下能力不足の箇所があったが、災害復旧助成事業により計画流量以上の流下能力を有する河道へ改修された。

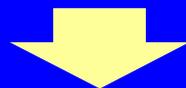


河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

➤整備計画目標設定の観点

- ① 三重県内の指標から見た治水安全度バランスを考慮して目標の整備計画規模を設定する。
- ② 既往主要洪水と同規模の氾濫被害を防止する観点から既往計画との整合を図る。



- ① 三重県内の指標からみた治水安全度（整備計画規模）
 - ・ 三重県内の指標からみた治水安全度では概ね1/30となる。
- ② 既往洪水の確率規模
 - ・ 近年最大洪水である平成16年9月洪水の確率規模が、概ね $W=1/30$ である。

➤横輪川の整備計画の目標規模の設定

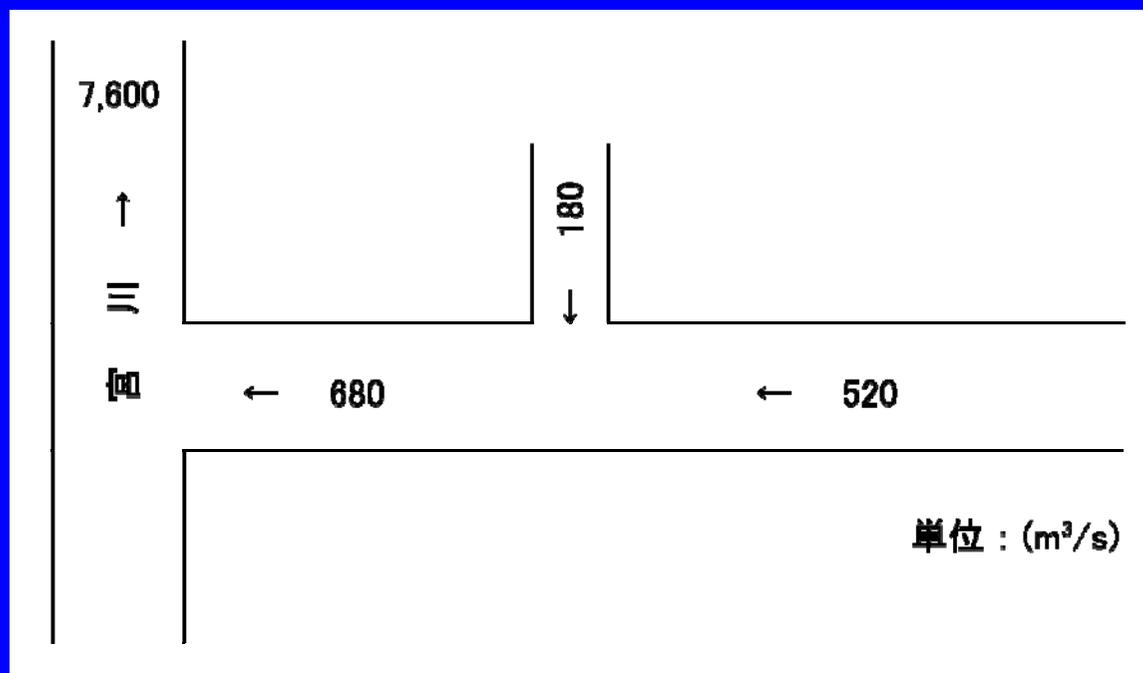
横輪川の整備計画における目標規模は、整備計画規模と同じ概ね30年に1度発生する洪水に対して外水氾濫による浸水被害を防止することを目標とする。

■横輪川

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

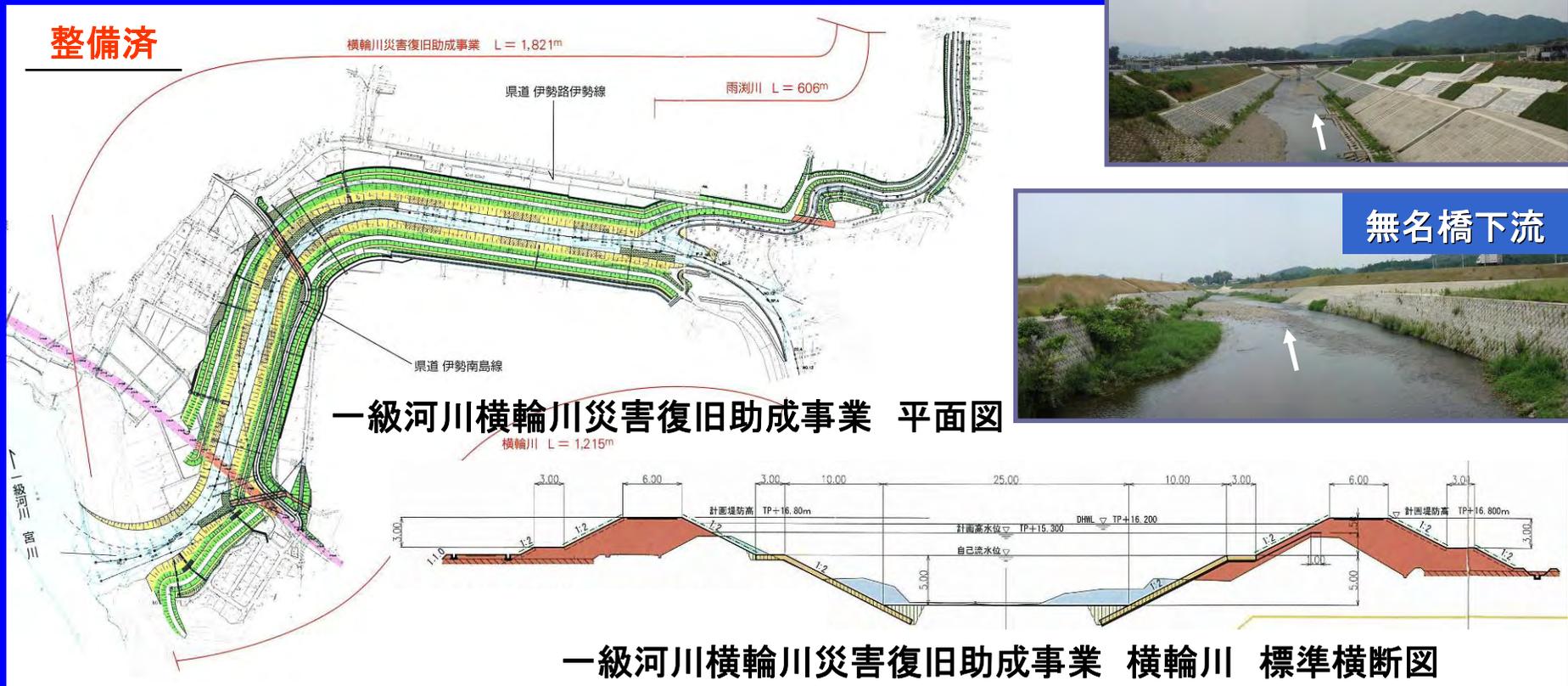
整備計画における計画流量配分は以下のとおりとする。



■横輪川

河川整備の実施に関する事項 工事の目的、種類及び施行の場所

●主要な改修内容平面図



■横輪川

河川整備の実施に関する事項

河川環境の整備と保全に関する目標

●水系全体

河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、河川が本来有する動植物の生息・生育・繁殖環境の保全と整備に努める。

アジメドジョウ



メダカ



オイカワ



改修後の河道状況



中上流部の河道状況

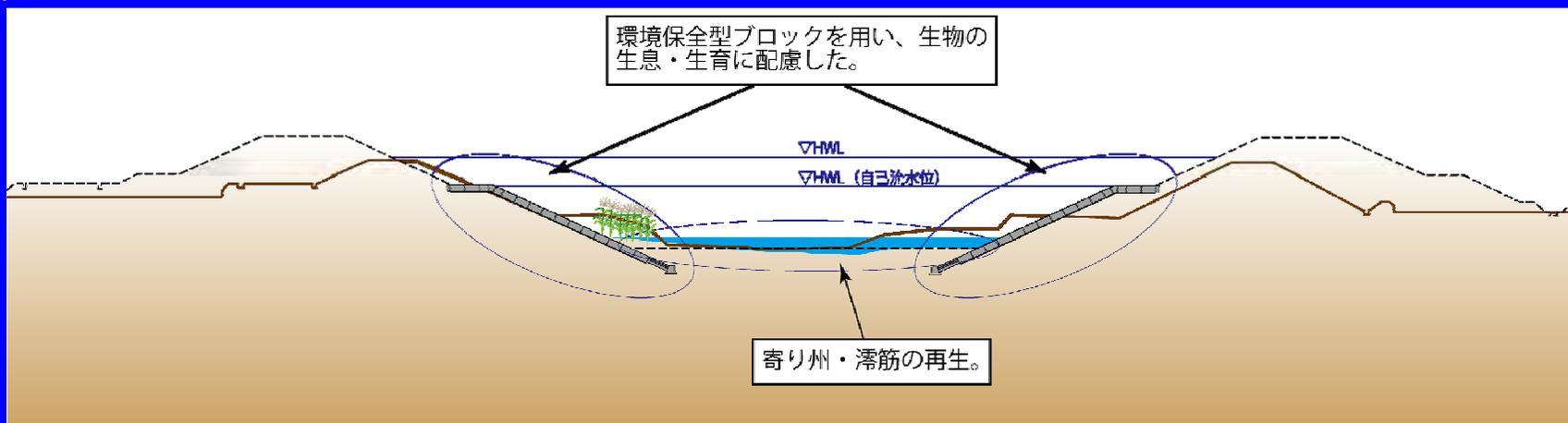


■横輪川

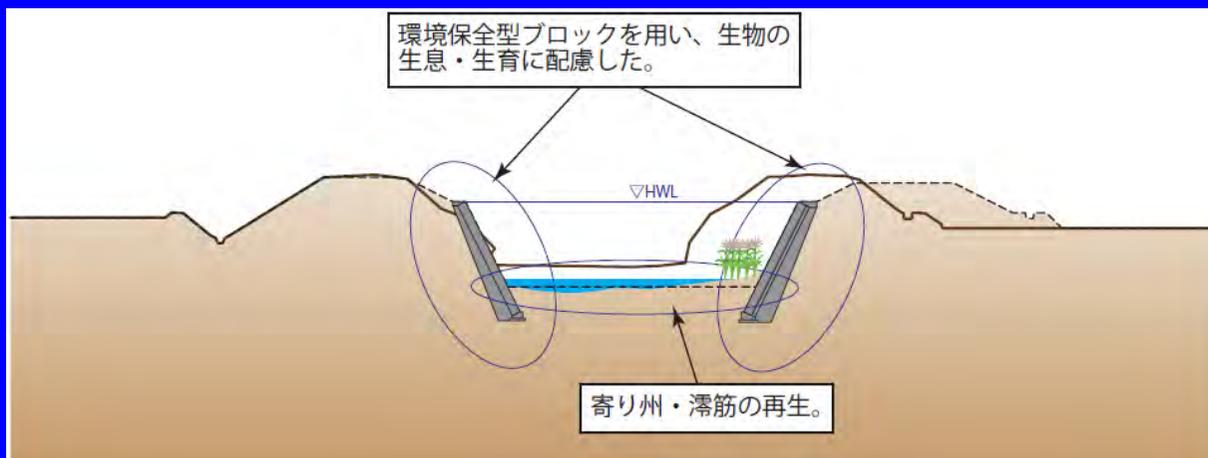
河川整備の実施に関する事項 主要工事の概要(改修イメージ図)

●整備箇所における河川環境への配慮事項

・横輪川



・雨湊川



河川整備計画の目標に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

— 正 常 流 量 —

横輪川の河川の適正な利用については、今後とも関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努めるとともに、綿密な情報提供等、水利用の効率化を促進し、さらに、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境が維持・改善されることを目標とする。

また、流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後も流況の把握を行うとともに取水実態や動植物の生息・生育・繁殖環境等の調査を行い、設定に努めるものとする。

河川整備の実施に関する事項

河川維持の目的・種類及び施行の場所

- | | |
|--------------------|--|
| (1) 河道および河川管理施設の維持 | → 堆積土砂対策、河川巡視、環境配慮、河川美化
→ 堤防等の機能点検、法面等の除草 |
| (2) 水量の監視等 | → 水量把握、情報提供 等 |
| (3) 水質の保全 | → 関係機関との連携・調整、住民との連携・協働 |
| (4) 河川環境の適正な利用と管理 | → 河川・水域の連続性の確保 |

その他、河川整備を総合的に進めるための事項

- 整備途上段階および超過洪水への対策
伊勢市等、関係機関や地域住民との連携のもと
 - ・ 土地利用や都市計画の調整等、総合的な被害軽減対策を推進する。
 - ・ 情報伝達及び警戒避難体制の整備を行う。
 - ・ 災害時、平常時の防災意識向上や水防活動の充実に努める。
- 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項
 - ・ 河川に関する各種情報の提供を実施する。
 - ・ 住民の意向を反映した住民との「協働」による河川整備を目指す。
 - ・ 住民の積極的な参加を促進し協働による川づくりに努める。
- 宮川流域ルネッサンスとの連携
 - ・ 水量確保、水質改善、森林整備などの課題に対し連携していく。
 - ・ 流域住民と一体、総合的に取り組んでいく。

■今後の進め方

第4回 流域委員会（平成22年2月15日）
・河川整備計画（原案）について

関係機関協議
・中部地方整備局
・東海農政局

関係市町長 意見聴取
（河川法第16条の2第5項）
パブリックコメント

策 定